

日本タングステン株式会社 会社説明会

～日本タングステンの事業内容と今後の成長戦略～

2019年3月19日

 日本タングステン株式会社

証券コード：6998

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 業績の概要（2019年3月期第3四半期）
4. 剰余金の配当、配当方針
5. 2020中期経営計画
6. 株式の状況

- 1. 会社概要**
2. 事業内容
3. 業績の概要（2019年3月期第3四半期）
4. 剰余金の配当、配当方針
5. 2020中期経営計画
6. 株式の状況

会社概要

社名	日本タングステン株式会社（証券コード：6998）
創立	1931年4月1日（創立87周年）
本社	福岡市博多区美野島1丁目2番8号
代表	取締役社長 後藤 信志
事業内容	<ol style="list-style-type: none">1. タングステン、モリブデン、その他の金属の精製加工並びに販売2. ファインセラミックその他窯業製品の製造並びに販売3. 不動産の賃貸および管理4. 太陽光発電事業
資本金	25億950万円
売上高	111億円（連結 2018.03現在）
従業員数	499人（連結 2018.09現在）
発行株式総数	2,577千株
株主数	3,020名（2018.09現在）
株式市場	東証（第2部）、福証

創業までの経緯

当社の創立者の一人である秋山英二は、1920年4月、タングステンの有望性に着目、新生の日本冶金(株)(東邦金属(株)の前身)に移り、ここでアメリカから招かれた技術顧問ロジャース氏の指導を受け、この分野で日本有数の技術者となります。

1930年春、秋山は照明用タングステン線を製造する会社設立の構想を抱き、1931年4月1日に操業開始しました。



若き日の秋山英二



1931年
創業当時の工場全景
(福岡市住吉)



現在 本社ビル
(博多区美野島)

タングステンとは？

スウェーデン語で「**重い石**」を意味する金属です。

その名のとおり「重い」という特徴を含め、次の特徴があります。

タングステンの特徴

1



熱に強い！

鉄は約 1 5 0 0 °C で溶ける。
タングstenは 3 3 8 0 °C で溶ける！

2



硬い！

炭素とくっつくと非常に硬くなる！
ダイヤモンドに次ぐ硬さ！

3



重い！

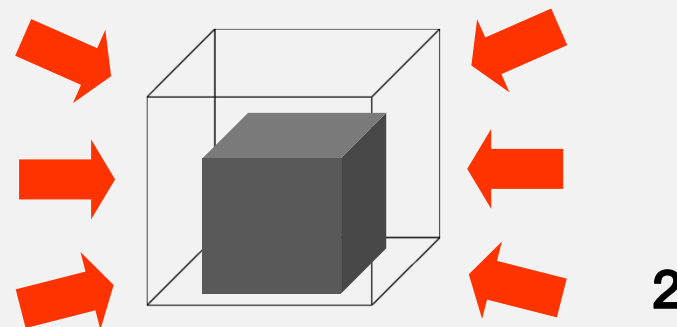
同じ大きさの鉄の 2.5 倍、鉛の 1.7 倍。
金とほぼ同じ重さ。

粉末冶金製品の製造工程

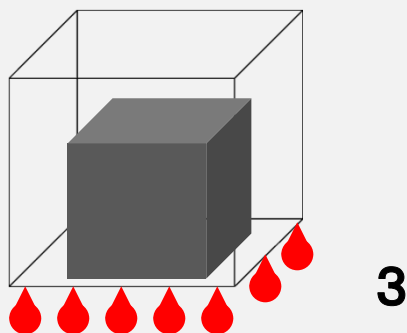
粉末・混合



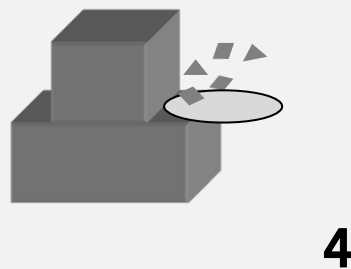
成形



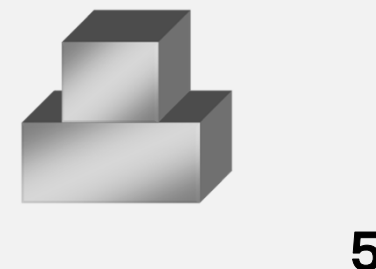
焼結



加工



製品形状



当社の製品開発史

粉末冶金技術

1930年代



金属材料製品



電気・電子製品

1950年代



超合金製品

1970年代



セラミック製品

当社の事業ドメインと製品

■ 衛生用品



NTダイカッター

■ 医療



タングステンリボン

■ 半導体



真空
チャック

■ インフラ



電力開閉装置
用電極



基山工場

■ 電子部品



ハードディスク
ドライブ用
磁気ヘッド基板

■ エネルギー



耐食・
耐摩耗製品

■ 自動車



抵抗溶接用
電極

■ 産業機器



ウルトラ
ファインバブル
クーラントシステム

国内事業所



本社



基山工場



飯塚工場
(金属材料製品)

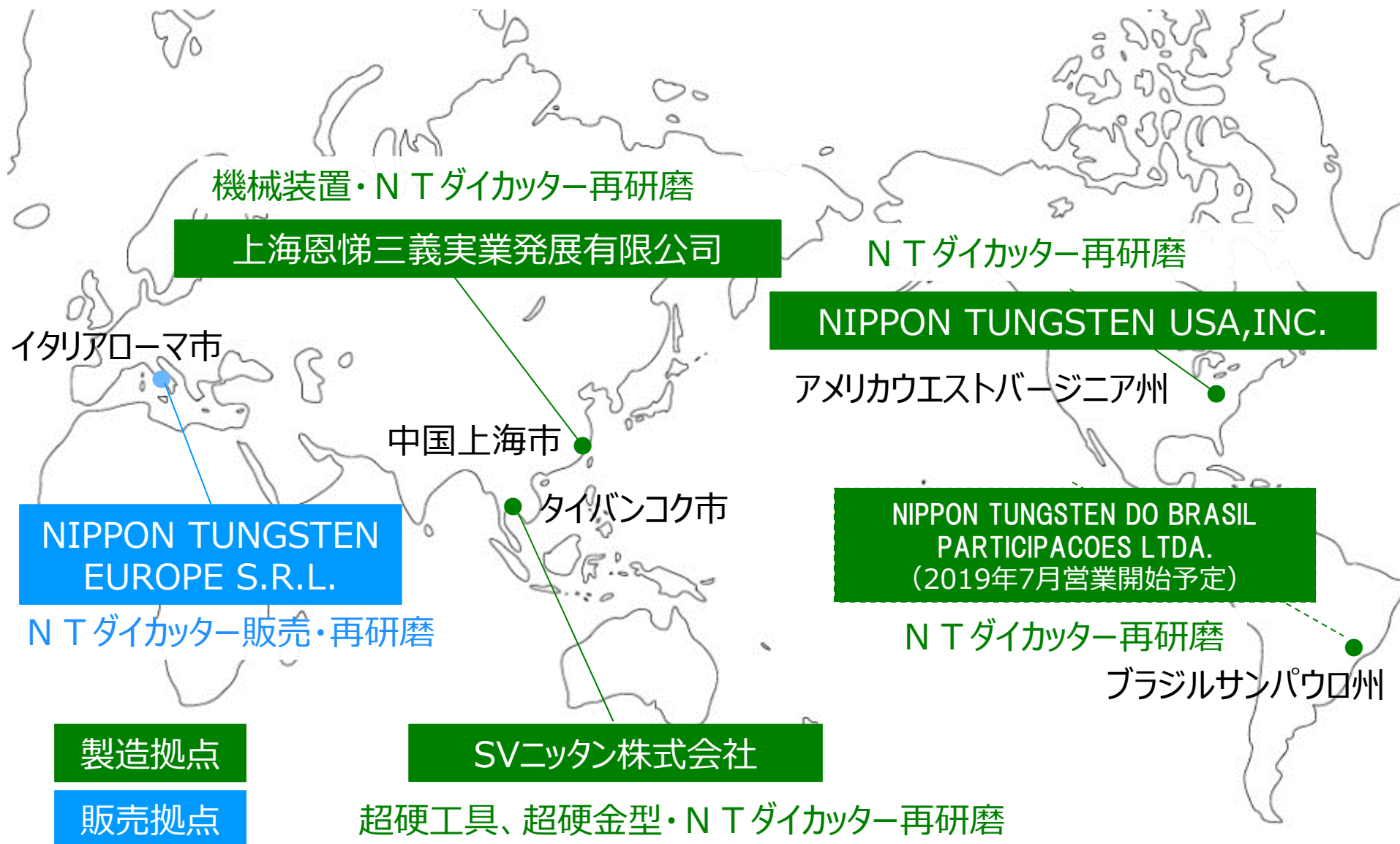


宇美工場
(磁気ヘッド基板)

製造拠点

販売拠点

海外事業拠点



1. 会社概要
- 2. 事業内容**
3. 業績の概要（2019年3月期第3四半期）
4. 剰余金の配当、配当方針
5. 2020中期経営計画
6. 株式の状況

当社の事業構成および主要製品

セグメント別売上高（2018年3月期）

6,233 (56%)

機械部品事業

電機部品事業

4,919 (44%)

超硬合金
製品



セラミック
製品



金属材料
製品



電気・電子
材料製品



4,176
37%

1,923
17%

2,996
27%

売上高
11,169
(内部取引含む)

2,057
19%

単位：百万円

超硬合金製品

Cemented carbide material products

金属の強靱さとセラミックスの耐摩耗性を合わせ持った超硬合金を製造しています。オリジナル耐摩耗・耐食性超硬と精密技術が特徴です。



製品紹介（超硬合金の主な製品）

超硬合金製切断工具



用途例：N T ダイカッター

長尺超硬製品（コーターバー）



用途例：液晶製造用塗布ヘッド

耐食・耐摩耗製品



用途例：産業用ポンプ

高温成形金型



用途例：ガラスレンズモールド

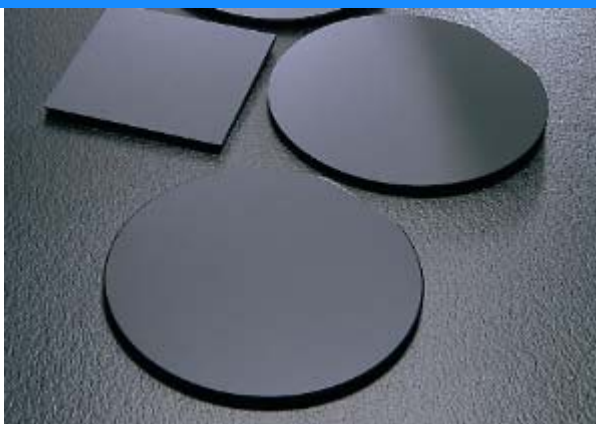
セラミックス製品 Ceramic material products

高強度、耐食性、耐摩耗性に優れたセラミックス製品。粉末冶金技術を駆使したオリジナル複合セラミックスを製造しております。



製品紹介（セラミックスの主な製品）

磁気ヘッド基板用セラミックス



用途例：ハードディスクドライブ

耐プラズマ材料製品 **NEW**



用途例：半導体製造装置部材

造管用セラミックロール



用途例：鋼管製造用ガイドロール

多孔質セラミック真空チャック



用途例：フィルム検査・搬送装置

金属材料製品

Metallic Material (W/Mo) Products

タングステンの持つ高い耐熱性、電気特性を利用したハロゲンランプ用ワイヤー、自動車球用ランプ、OA機器用（プロジェクターランプ用ワイヤー）、医療用（カテーテル）、ヒーター用等を製造しています。



製品紹介（金属材料の主な製品）

タングステンリボン



用途例：カテーテル

タングステン棒



用途例：放電灯用電極
抵抗溶接用電極

タングステンワイヤー



用途例：電球のフィラメント

コロナ放電タングステンワイヤー



用途例：空気清浄機用部材

電気・電子材料製品

Electric and Electronic Parts Material Products

スイッチの接点、抵抗溶接用電極、EVリレー用接点等の用途として、電気伝導性に優れた銀や銅と、耐熱性に優れたタングステンを組合せた複合材料を提供しています。



製品紹介 (電気・電子材料の主な製品)

日本タングステン株式会社

抵抗溶接用電極



用途例：自動車用電装部品用

プラズマ電極



用途例：プラズマ溶射用電極

開閉器用接点・電極



用途例：ガス遮断器用接点

ヘビーアロイ



用途例：放射線遮へい材
バランサー用錘

1. 会社概要
2. 事業内容
- 3. 業績の概要（2019年3月期第3四半期）**
4. 剰余金の配当、配当方針
5. 2020中期経営計画
6. 株式の状況

● 損益の状況

(単位:百万円)

連結業績	2018年3月期 第3四半期(構成比)	2019年3月期 第3四半期(構成比)	対前年同四半期比 増減額(増減率)
売上高	8,223 (100%)	9,509 (100%)	1,286 (15.6%)
営業利益	596 (7.3%)	908 (9.5%)	311 (52.2%)
経常利益	812 (9.9%)	1,039 (10.9%)	227 (28%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	605 (7.4%)	751 (7.9%)	145 (24.1%)

● 財務の状況

(単位:百万円)

科目	2018年3月期 期末	2019年3月期 第3四半期末	前連結会計年度末比 増減額
総資産	16,118	15,996	△121
負債	6,540	6,017	△522
純資産	9,578	9,979	400

セグメント別の状況（連結）

2019年3月期第3四半期 セグメント別売上高

5,498
58% (56%)

機械部品事業

電機部品事業

4,046
42% (44%)

超硬合金 製品



セラミック 製品



3,670
39%
(37%)

売上高
9,556
(内部取引含む)

1,540
16%
(17%)

2,505
26%
(27%)

1,828
19%
(19%)

金属材料 製品



電気・電子 材料製品



単位：百万円

() は前年同四半期の占有比率

事業部別主要製品の状況

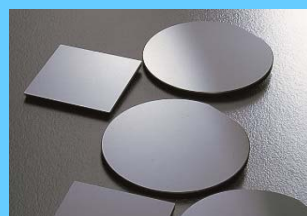
機械部品事業

	2018年3月期第3四半期	2019年3月期第3四半期	対前年四半期比
売上高 (百万円)	4,593	5,498	904 (19.7%)
営業利益 (百万円)	704	911	206 (29.3%)



衛生用品関連のNTダイカッター

- ・当社の生産体制強化やお客様への新商品・新技術などのイノベーション提案が認められたこと、及び国内向けがお客様の設備投資が活発で好調に推移し増収



情報機器関連のハードディスクドライブ(HDD)用磁気ヘッド基板

- ・ニアラインストレージ等の大容量HDDの需要が底堅く推移し増収



液晶関連治工具製品

- ・超硬製治工具製品が好調で増収



※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

事業部別主要製品の状況

電機部品事業

	2018年3月期第3四半期	2019年3月期第3四半期	対前年四半期比
売上高 (百万円)	3,653	4,046	392 (10.7%)
営業利益 (百万円)	225	400	174 (77.4%)



自動車関連のEV用接点製品

・EV自動車市場の拡大により海外向けが好調で増収



自動車関連の電極製品

・一部製品で需要減となるも、全体として堅調に推移



医療関係のタングステン製品

・海外向けが好調に推移

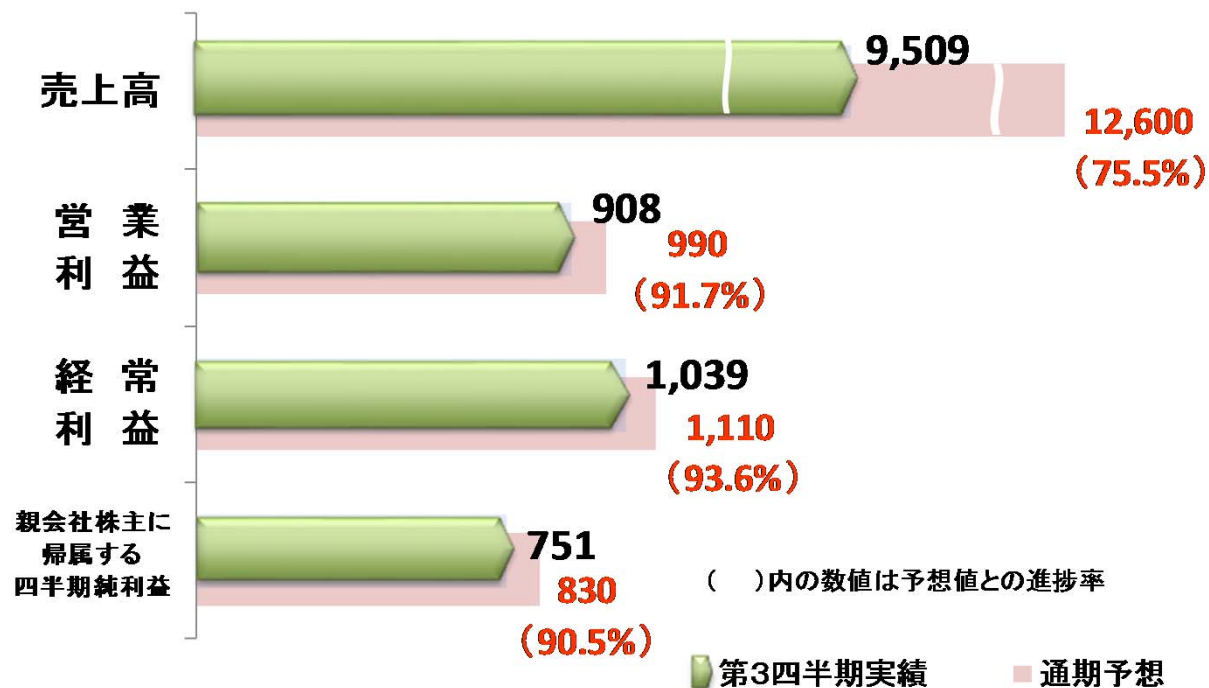


※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

通期の業績予想

- ・今後の経済環境は、米中貿易摩擦による世界経済の減速リスクの影響等、不透明な状況で推移すると思われます
- ・通期の業績は、好調に推移しているが、第4四半期の業績については精査中であります
以上により、2018年11月8日に公表した**通期の業績予想は据え置きます**
なお、今後の業績について修正が必要となった場合には、速やかに開示します

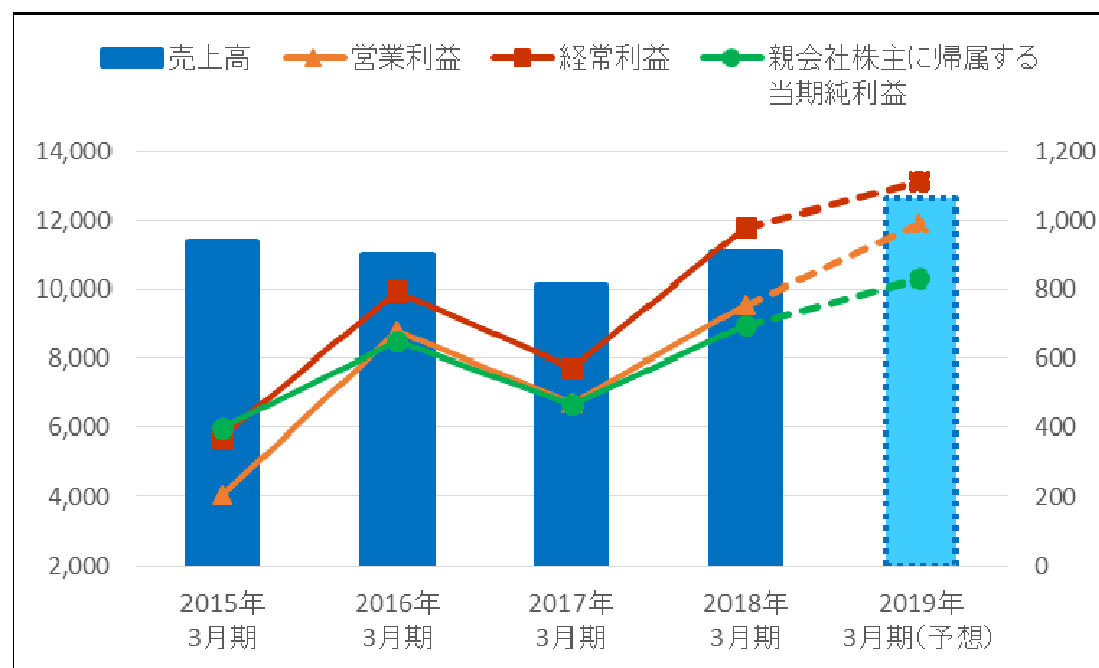
連結業績予想(2018年11月8日公表)数値と進捗率 (単位:百万円)



業績の推移（連結）

連結通期業績（予想）推移表	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期（予想）
売上高（百万円）	11,372	11,022	10,124	11,102	12,600
営業利益（百万円）	204	678	473	755	990
経常利益（百万円）	372	795	575	980	1,110
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	401	651	469	696	830
1株当たり当期純利益（円）	164.23	266.45	195.02	288.51	341.85

■ 売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



1. 会社概要
2. 事業内容
3. 業績の概要（2019年3月期第3四半期）
- 4. 剰余金の配当、配当方針**
5. 2020中期経営計画
6. 株式の状況

剰余金の配当、配当方針

- ・中間配当金は**40円を実施**
 - ・期末配当金予想は**50円とします**
- この結果、年間配当（中間配当 1株当たり40円を含む） 予想は、
前期と比較して10円増配の1株当たり90円となります

【配当方針】

当社は株主の皆様への利益還元について、親会社株主に帰属する当期純利益の30%を目安に、新商品開発を推進するための設備・人財・研究などへの戦略的投資、中長期的な財務体質の強化等を勘案しつつ、安定的・継続的な配当に努めております。また、1株当たりの株主価値を向上させるとともに、資本効率の向上を図るため、適宜自己株式の取得に努めてまいります。

	2018年3月期 実績	2019年3月期 予想
中間配当金	※ 円 銭 30 00	円 銭 40 00
期末配当金	円 銭 50 00	予想値 円 銭 50 00
年間配当金	※ 円 銭 80 00	予想値 円 銭 90 00
1株当たり 当期純利益	円 銭 288 51	予想値 円 銭 341 85
配当性向	27.7%	予想値 26.3%

※：2018年3月期の中間配当金、年間配当金は株式併合後の基準で換算

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 業績の概要（2019年3月期第3四半期）
4. 剰余金の配当、配当方針
- 5. 2020中期経営計画**
6. 株式の状況

当社は、創立100周年(2031年)に向けた飛躍への足がかりとして、2018年度から2020年度までの3ヶ年を対象とする新中期経営計画「**日本タンゲステングループ2020中期経営計画**」を策定いたしました。

今回の2020中期経営計画の策定にあたっては、**創立100周年**の2031年に会社を引っ張っていく若手社員が中心となり、職場ごとに自ら定めた未来のありたい姿に向かって自律的な活動を実施しました。

2020中期経営計画

2020中期経営計画では4つの基本方針を設定し、最終目標の達成に向けて重点項目について各施策を実行してまいります。

●基本方針

1 人財の育成

自発的に考え、行動する社員の育成

幅広い視点から深く考える人財を育成し、
個人だけでなく組織の課題設定力・課題解決力を
向上させていきます

2 新商品の創出

お客様のニーズをいち早くつかみ、 継続的かつスピーディに新商品を創出

新商品の創出活動を活性化させ、
NO.1の価値創造に挑戦します

3 ものづくりの強化

お客様に満足していただける良いものを 安く、早くつくる、ものづくり力

生産効率の向上、コストの削減、品質の安定を図り、
収益拡大を目指します

4 グローバル市場での拡販

グローバルネットワークの拡大

世界中のお客様へ向けたサービスの提供、販売、
製造体制を確立し、売上拡大を目指します

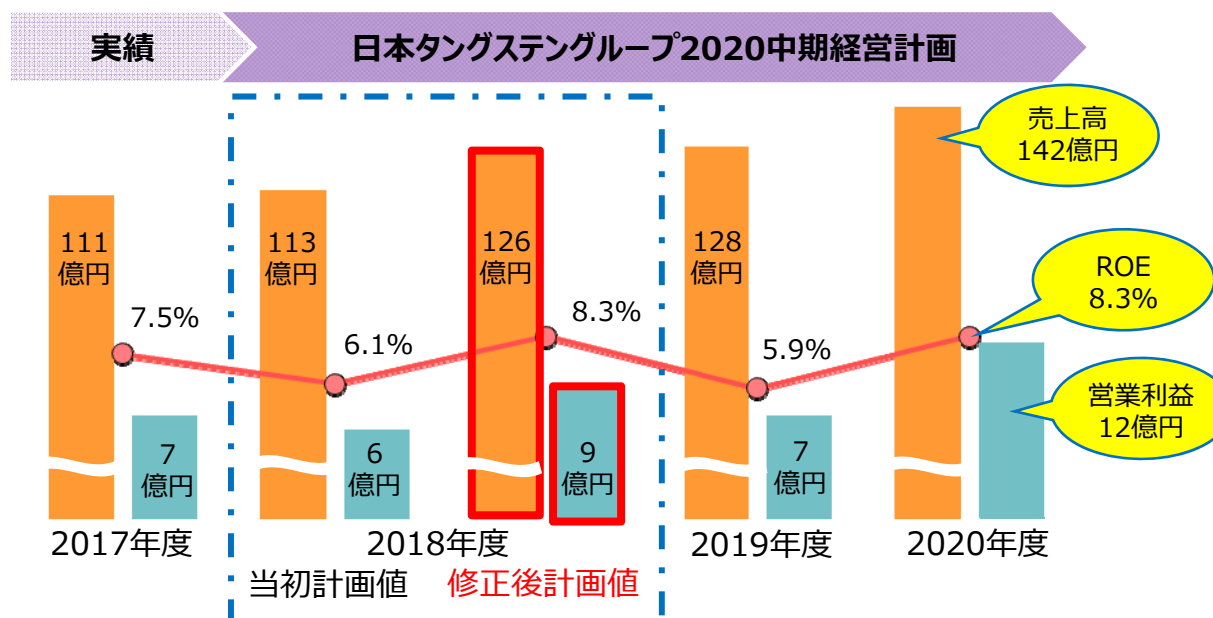
2020中期経営計画

● 計数計画

2020(最終)年度に目指す指標

連結売上高	142億円
連結営業利益	12億円
ROE	8.3%

連結業績目標の推移



● 計数計画

注力市場

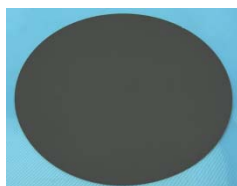
衛生・医療

NTダイカッター
タングステンリボン



半導体・電子部品

耐プラズマ材料製品
プラズマ電極



自動車

抵抗溶接用電極
EV用接点製品



2020中期経営計画

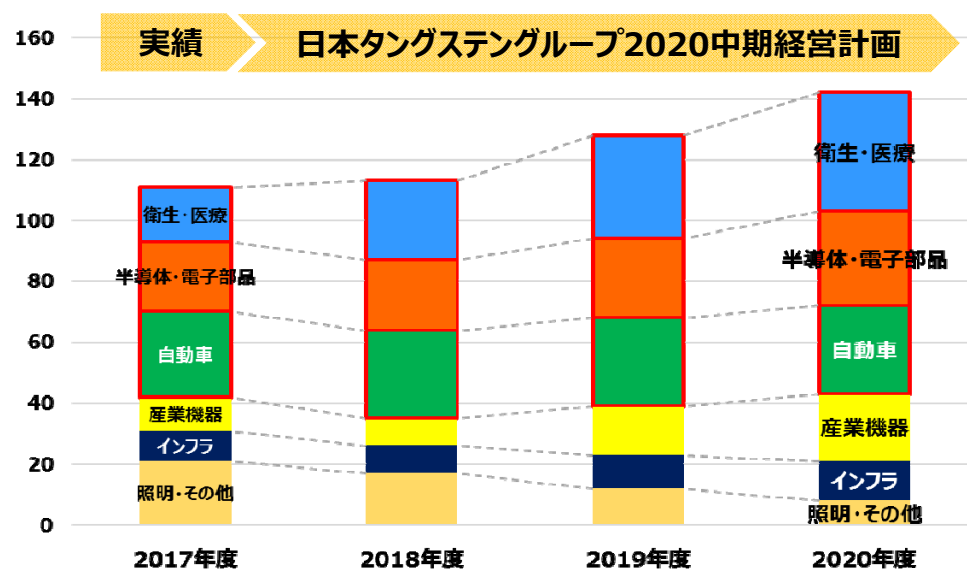
● 計数計画

5市場別の連結売上高目標

(単位：億円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
衛生・医療	18	26	34	39
半導体・電子部品	23	23	26	31
自動車	28	29	29	29
産業機器	11	9	16	22
インフラ	10	9	11	13
照明・その他	21	17	12	8
計	111	113	128	142

(単位：億円)



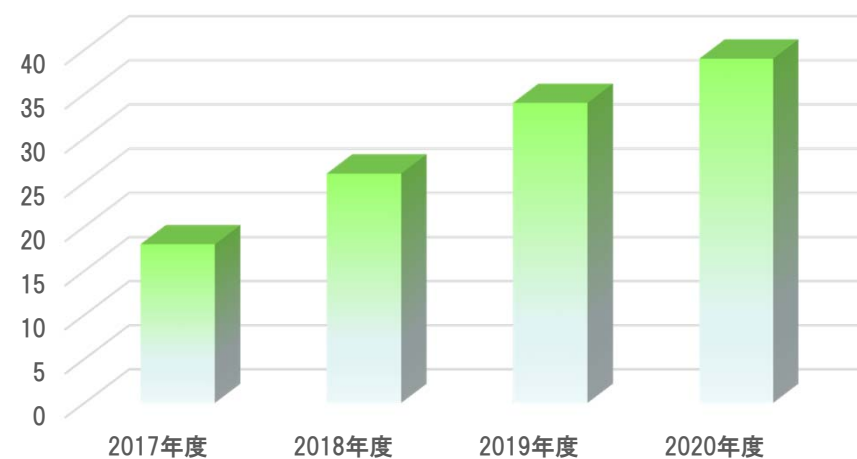
2030年度目標
230億円

創立100周年に向けて

2030年度

■ 衛生用品・医療

衛生用品・医療分野の売上計画(億円)



衛生用品



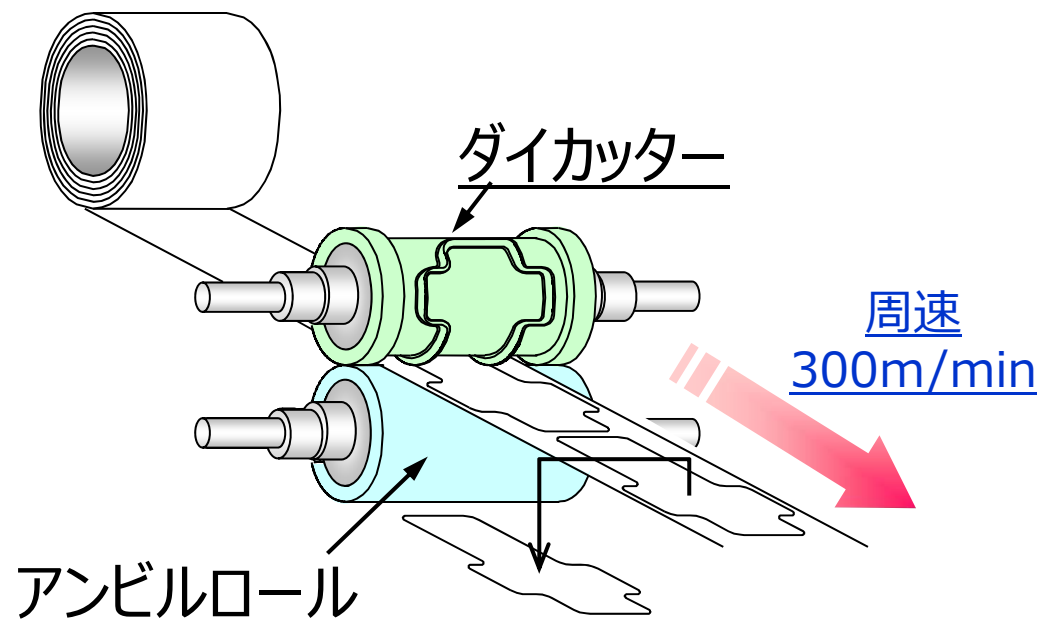
NTダイカッター

医療



タンゲステンリボン

NTダイカッター

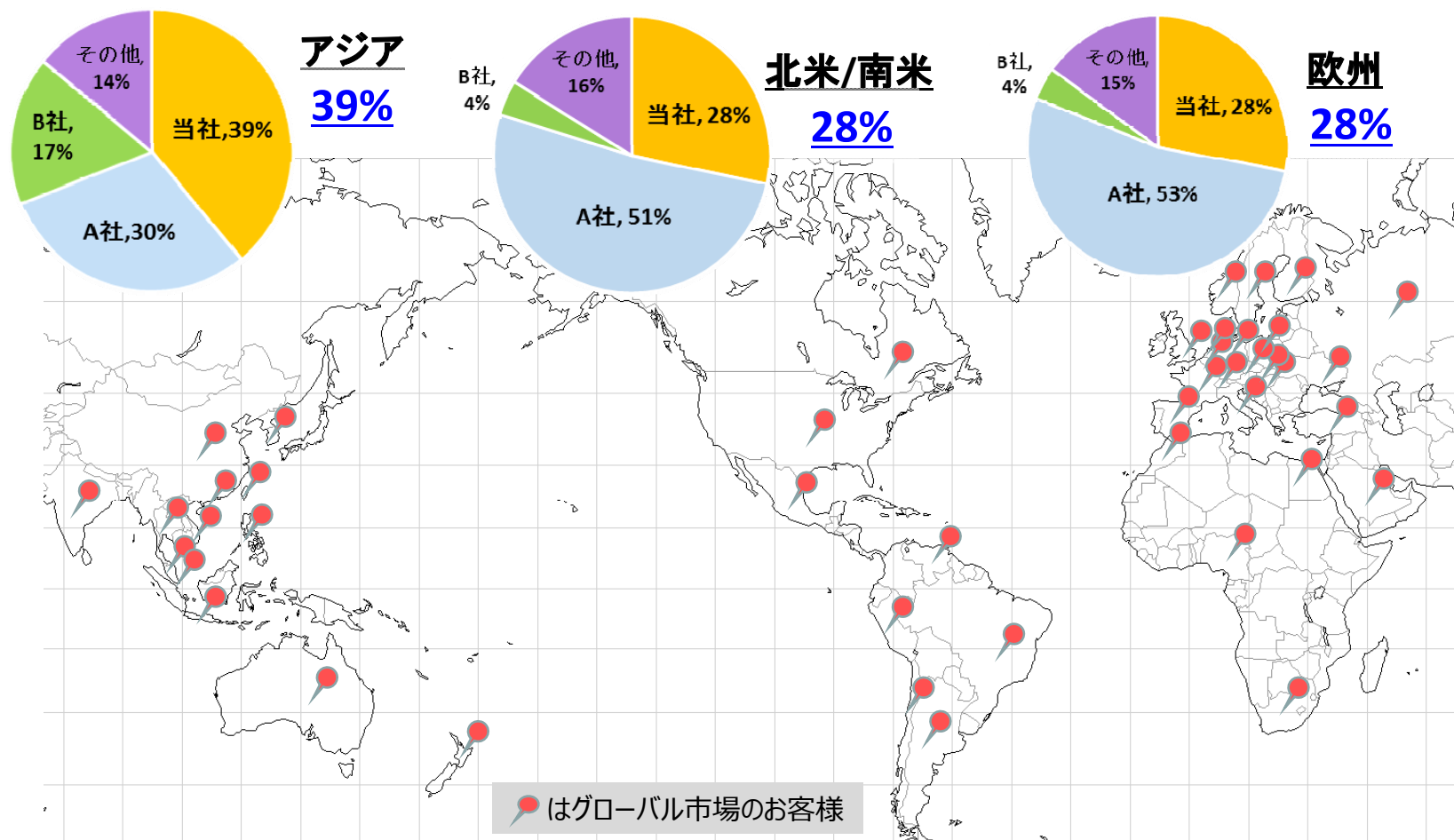


NTダイカッターは1986年、世界に先駆けて、独自の粉末冶金・高精度加工技術により商品化された高性能超硬合金製ロータリーカッターで、不織布・紙・ポリマー・金属箔などの高速輪郭加工が可能です。

紙おむつ・ナプキン製造用カッター(超硬合金)の**グローバル市場で高いシェアを誇る**当社の主力製品です。

NTダイカッター市場シェア

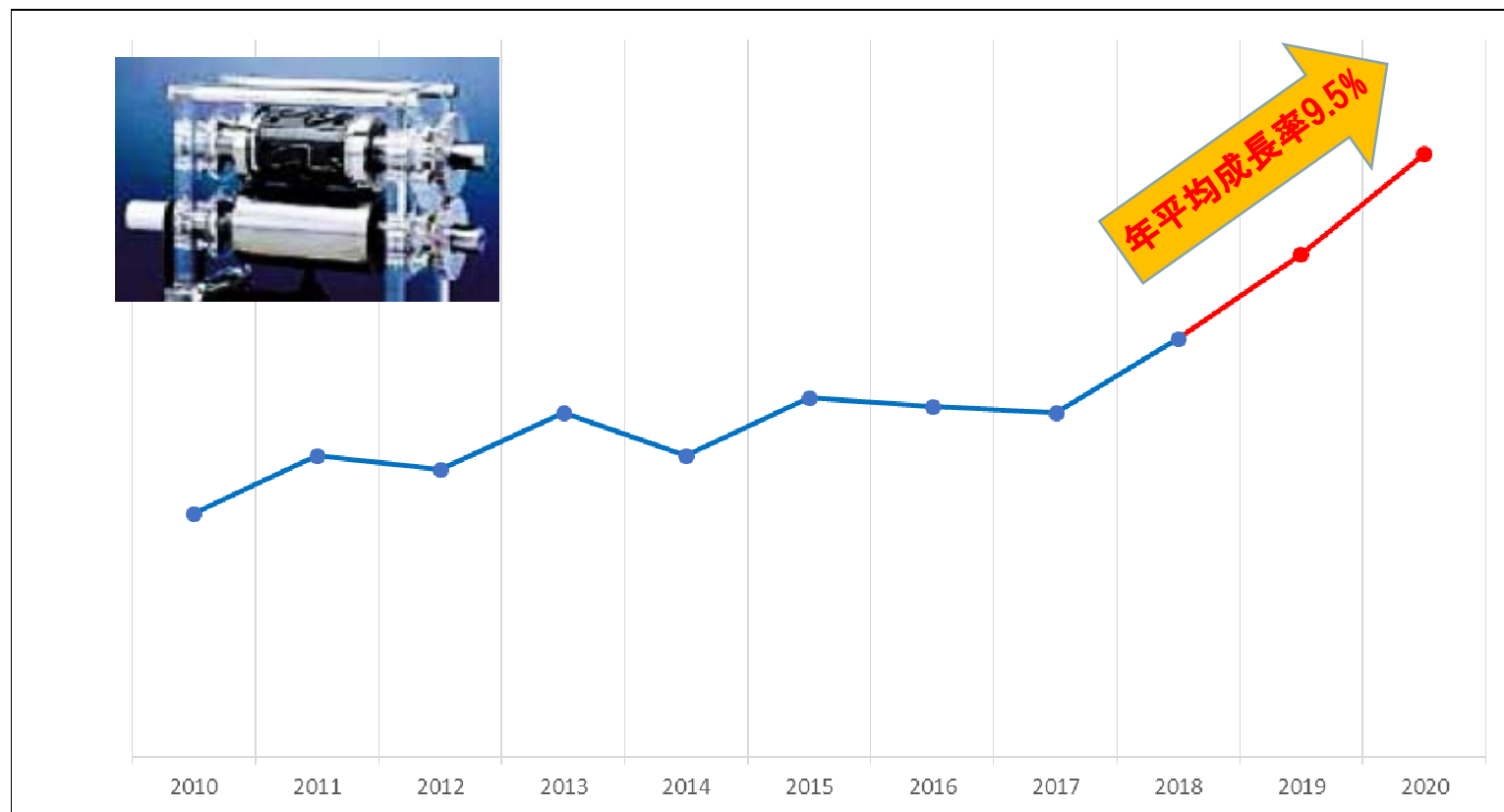
- ◆44カ国のお客様へ納入。
- ◆超硬ダイカッター市場シェア：アジア市場No.1、グローバル市場No.2（当社調べ）



超硬ダイカッター市場におけるNTダイカッターの地域別市場シェア（当社調べ）

NTダイカッター成長予測

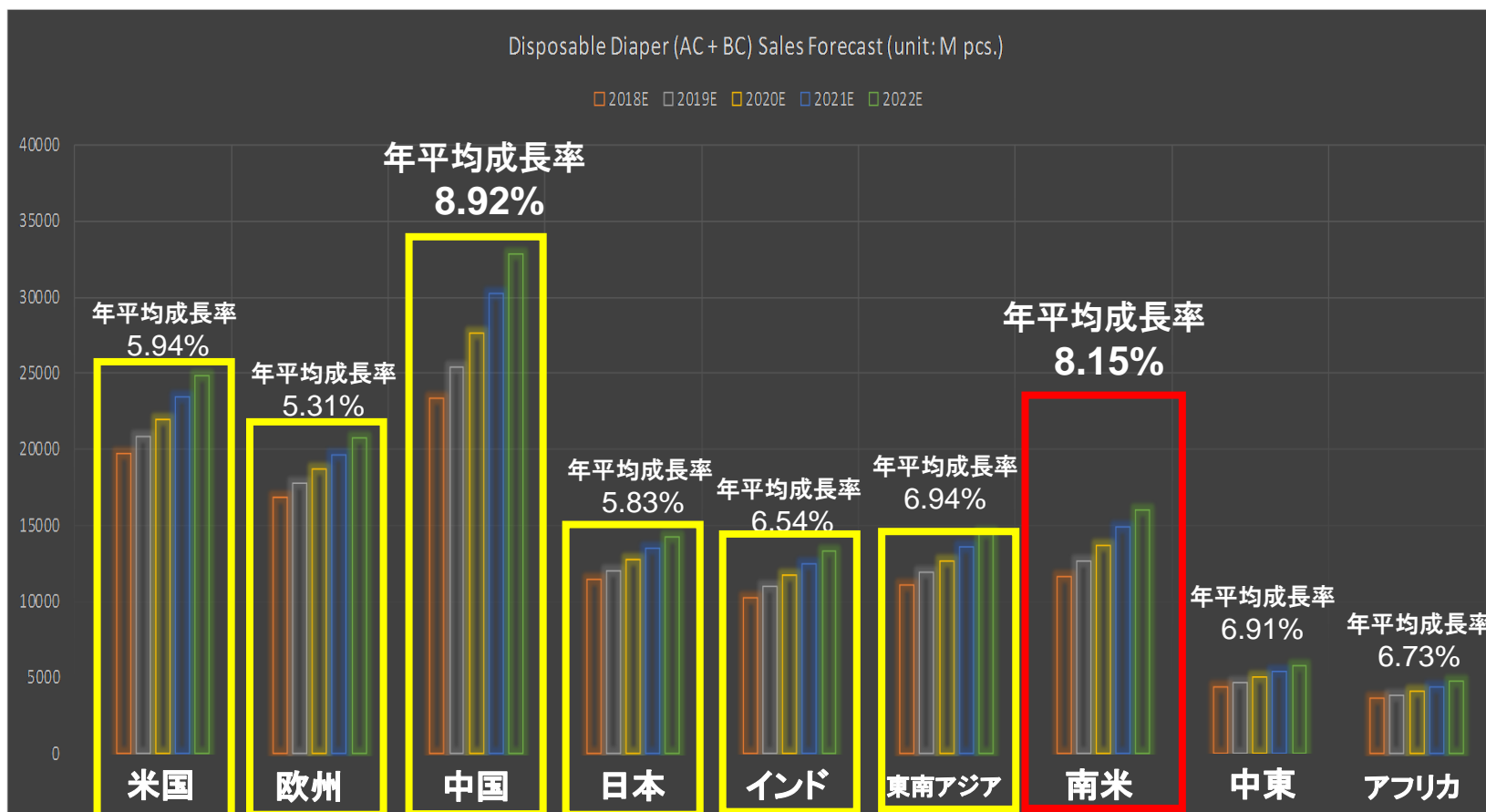
NTダイカッターは2018-2020で年平均成長率16%と拡大する見込み



NTダイカッターの成長予測2010-2020 (当社調べ)

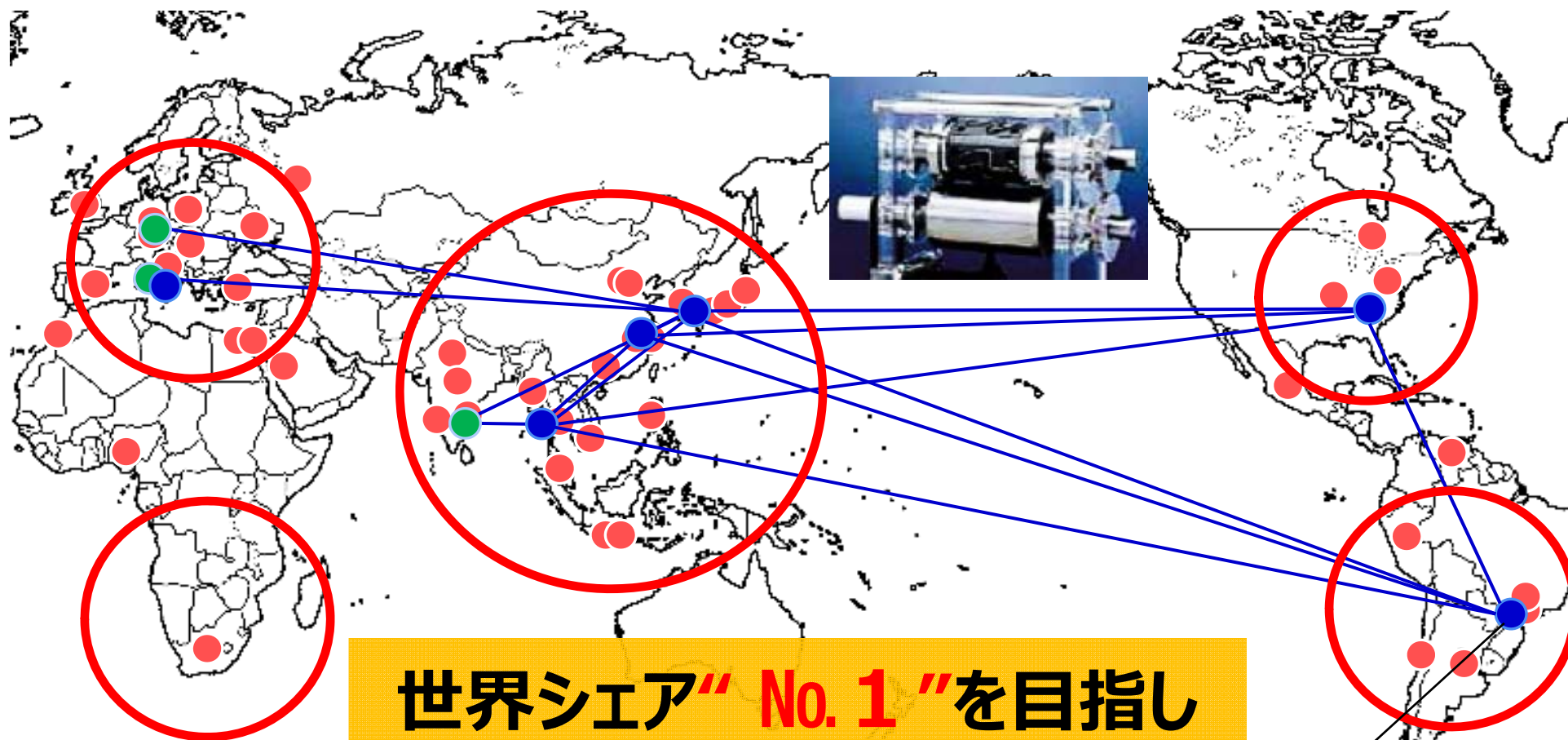
紙おむつの市場成長予測

- ◆地域別の年平均成長率は、①中国、②南米の市場が高い
- ◆製品別では、大人おむつ製品の成長が期待される ⇒大型ダイカッター製品の開発



大人・子供おむつの地域別市場成長率予測 2018-2022 (出典: QY research)

①グローバル戦略



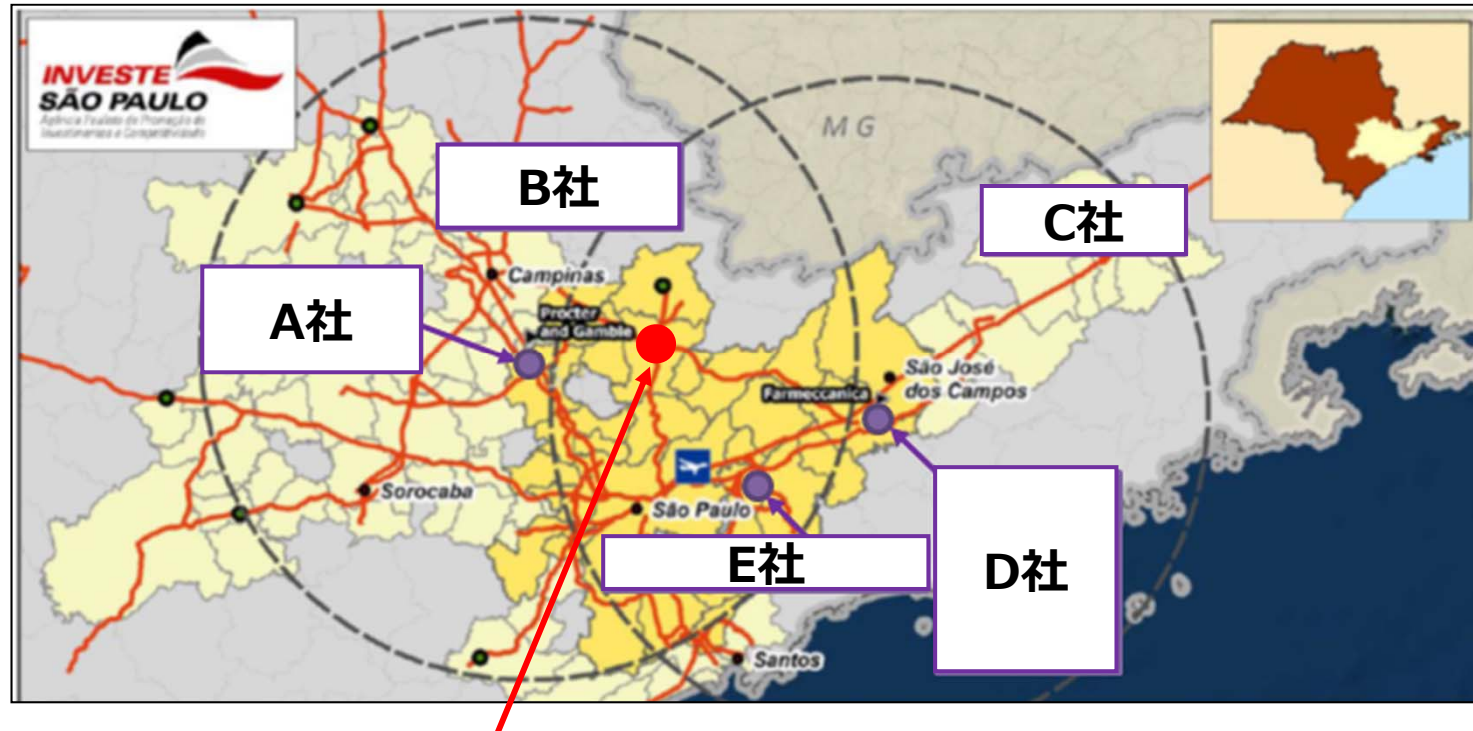
世界シェア“ No. 1 ”を目指し
グローバルに展開する

ブラジル子会社を設立
(2019年7月営業開始予定)

グローバル市場のお客様（●）ニーズに対応し、販売拠点を展開し、アフターサービス拠点（●:グループ会社 ●:協力会社）を充実させることで、更なるシェアアップを目指します。

①グローバル戦略

◆南米市場開拓 ブラジル子会社設立



◆所在地：ブラジル サンパウロ州

(南米市場において、サニタリーメーカーはブラジルに集中)

◆営業開始予定日：2019年7月

- ◆事業内容：①NTダイカッター関連製品の販売および再研磨サービスの提供
- ②その他当社関連製品の販売およびサービスの提供

②生産能力強化

N T ダイカッターの生産能力増強・今後の新製品増産を目的として、
建屋を増築し、2018年5月に稼働を開始。

建屋の概況

- (1) 所在地 基山工場
- (2) 建築面積 約4,100m²
- (3) 生産開始 2018年5月
- (4) 投資総額 約10億円

生産能力

今回の増築により、N T ダイカッターの
生産能力は現在の倍になる予定

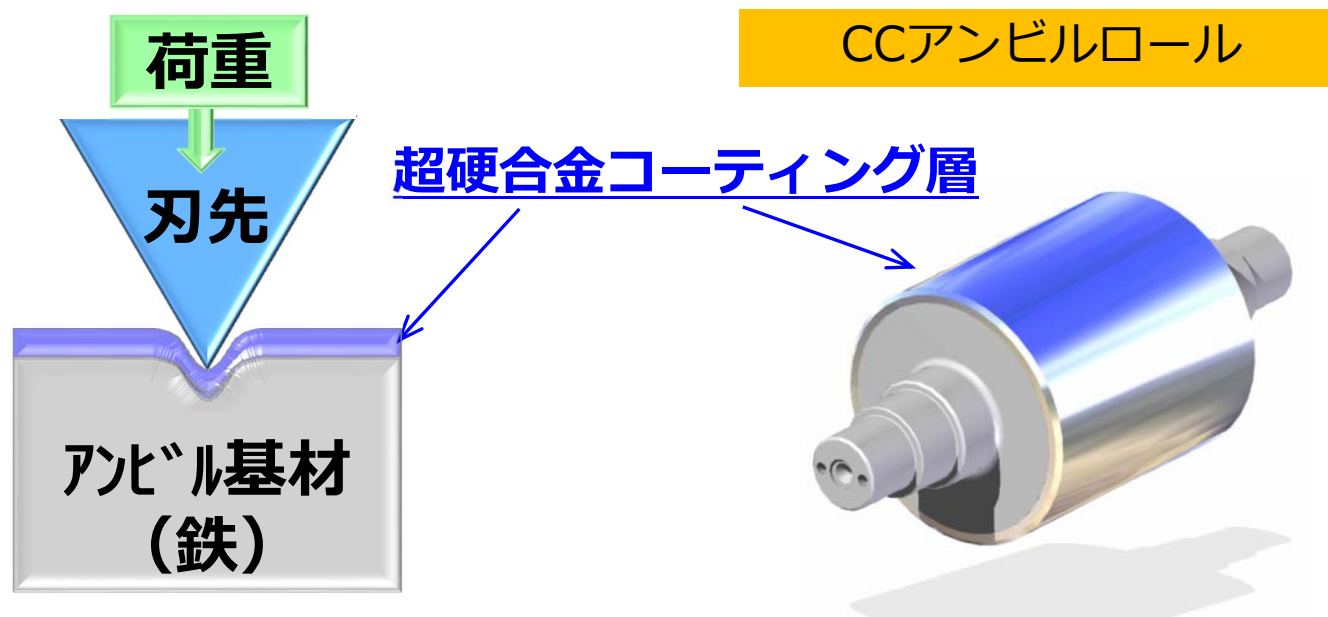


増築部分

③イノベーションの提案

CCアンビルロール (Cemented Carbide Coated Anvil Roll)

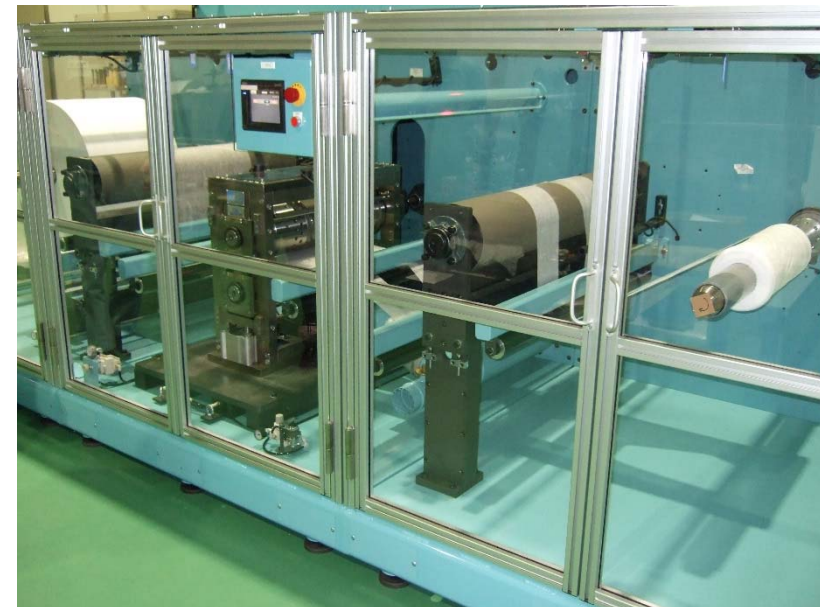
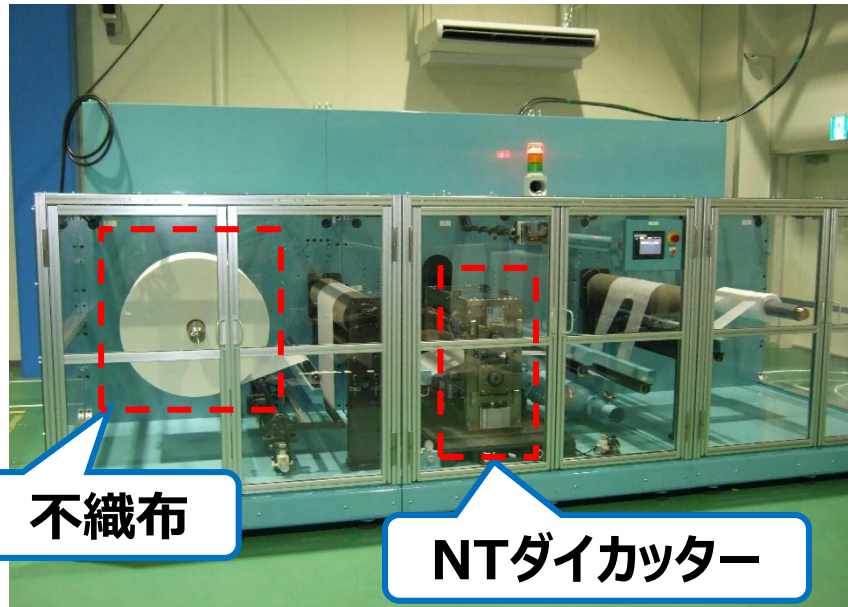
- ・ CCアンビルロールは、アンビルロール表面に緻密で高硬度な**超硬合金コーティング層**を有する当社独自の製品です。
- ・ ロータリーカッターの刃先を優しく受け止め、優れた耐久性を併せ持つことで、シャープな切れ味、長寿命、刃先損傷トラブル防止、外部環境の影響を受けにくい、などの優れた特徴をもっています。
- ・ 世界中のサニタリー工場や様々な生産ラインで、高い信頼と評価を得ています。(JPN Patent No.5797408, No.6209300)



④品質・顧客サービス

2019年1月に、NTダイカッター検査設備として、テストライン装置を導入しました。お客様と同じ生産条件（不織布・生産速度など）で稼働させ、温度上昇や切断性を検証し、品質を向上させます。

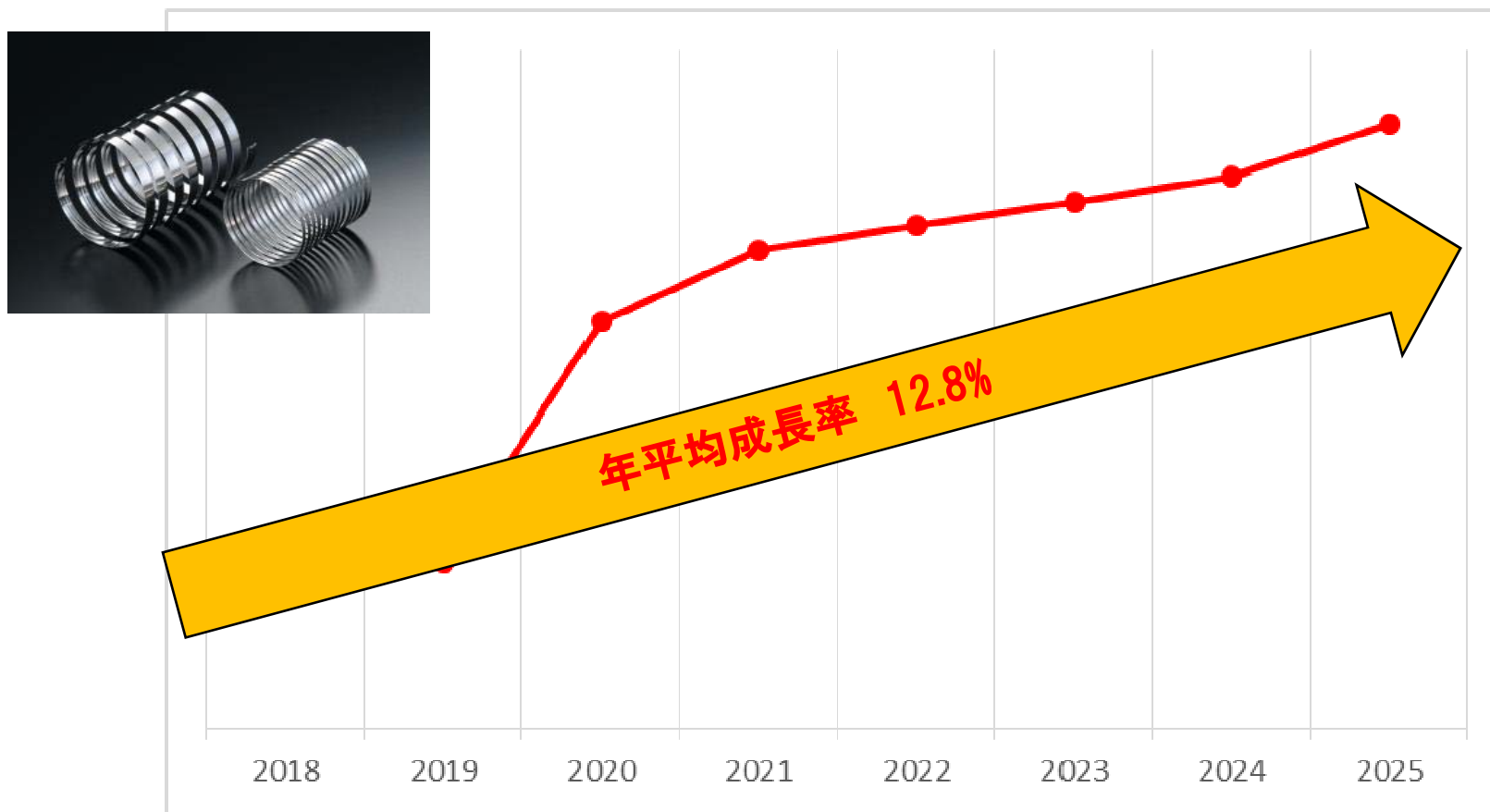
今後、需要拡大が見込まれる大人おむつ用大型ダイカッターの稼働も可能です。
（不織布最大幅：1m、 運転速度Max：600m/min）



1月11日付の日本経済新聞朝刊に「NTダイカッターテストライン装置の導入」の記事が掲載されました。当社のホームページ（https://www.nittan.co.jp/topics/topics_page_1_439.html）でもご確認ください。

低侵襲治療の市場成長予測

- ◆低侵襲治療の市場は2018年－2025年に年平均成長率が12.8%で拡大すると予測されています

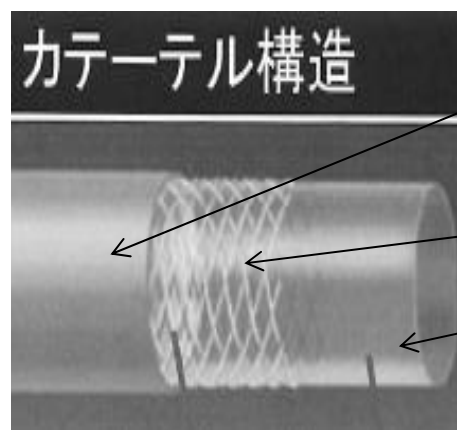
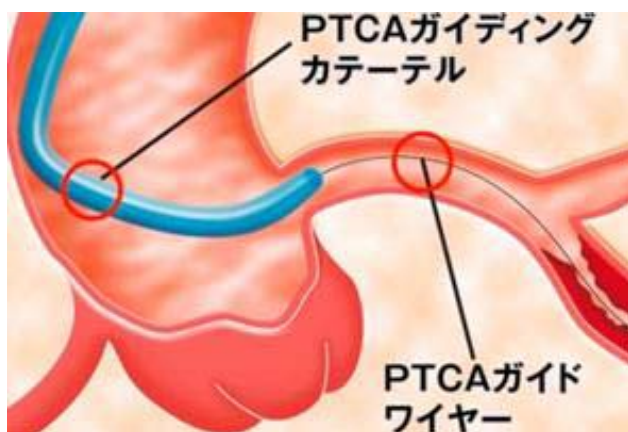


低侵襲治療の市場成長率調査（2018-2025）（当社調べ）

タングステンリボン

— 体にやさしい(低侵襲)医療に役立っています —

血管狭窄(きょうさく)手術



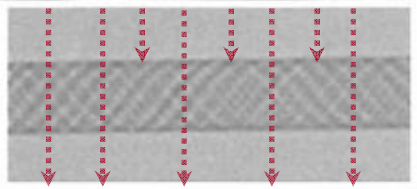
外層樹脂

金属製ワイヤー

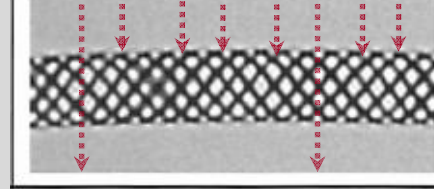
内層樹脂

X線

ステンレス 25 x 150 μ m



タングステン 25 x 150 μ m

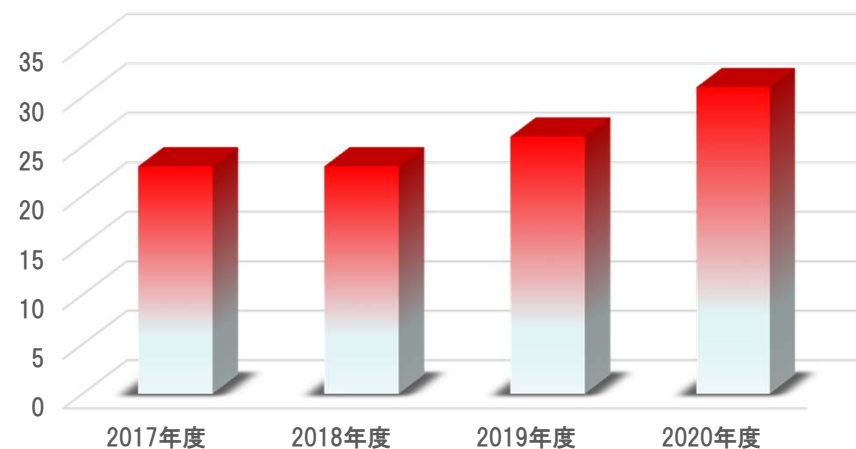


* タングステンは鉄の2.5倍の重さがあり、その特徴で、同じ条件下でX線を照射したモニターでは
2.5倍クリアに見えます

* X線照射量を減らすことで、体の負担が軽減されます

■ 半導体・電子部品

半導体・電子部品分野の売上計画(億円)



半導体



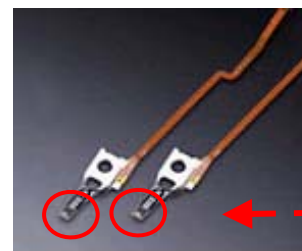
半導体製造
装置部材

電子部品



ハードディスク
ドライブ用
磁気ヘッド基板

ハードディスクドライブ用磁気ヘッド基板



記録メディアであるハードディスクドライブにデータの読み書きを行う磁気ヘッドが搭載されており、このヘッドに当社のセラミックスが用いられています。

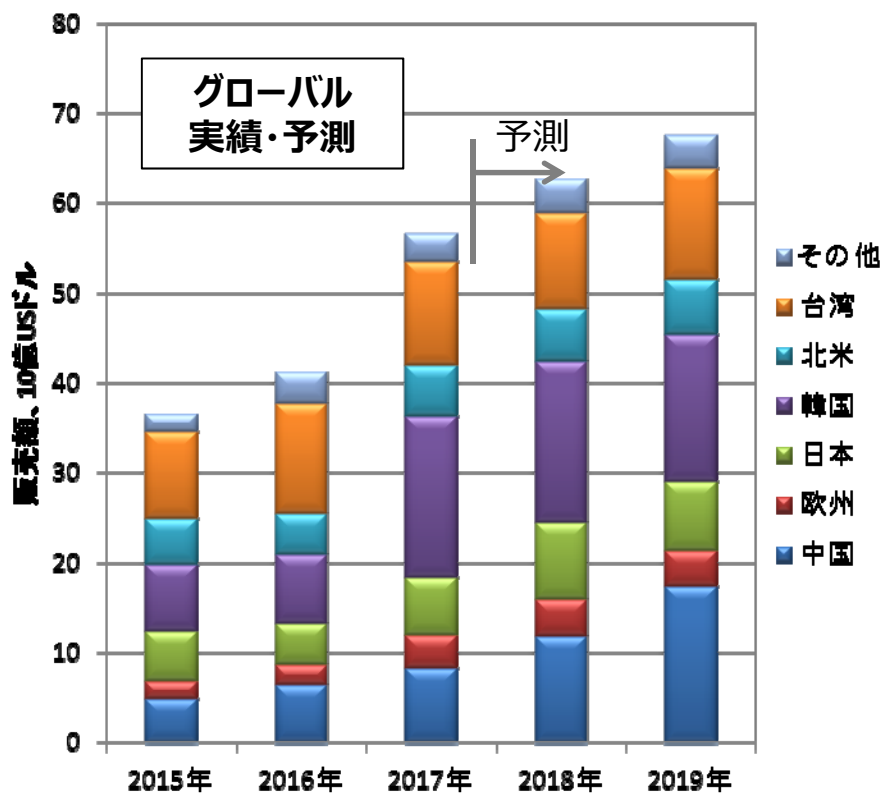
磁気ヘッド基板の**世界シェアは75%** (自社推計) で世界中の磁気ヘッドに広く使用され、高い評価をいただいています。

半導体製造装置部材の市場戦略

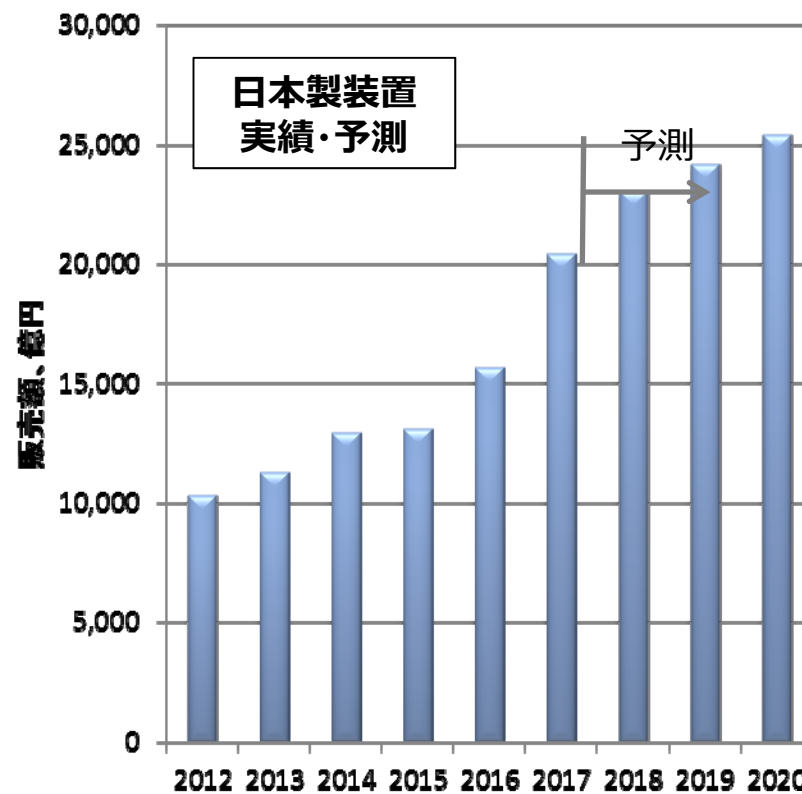


半導体製造装置市場 実績・予測

- ◆ 2017年はグローバル、日本製装置ともに大幅に伸長しました
- ◆ 2018年以降も半導体の旺盛な需要に支えられ、堅調な成長が見込まれています



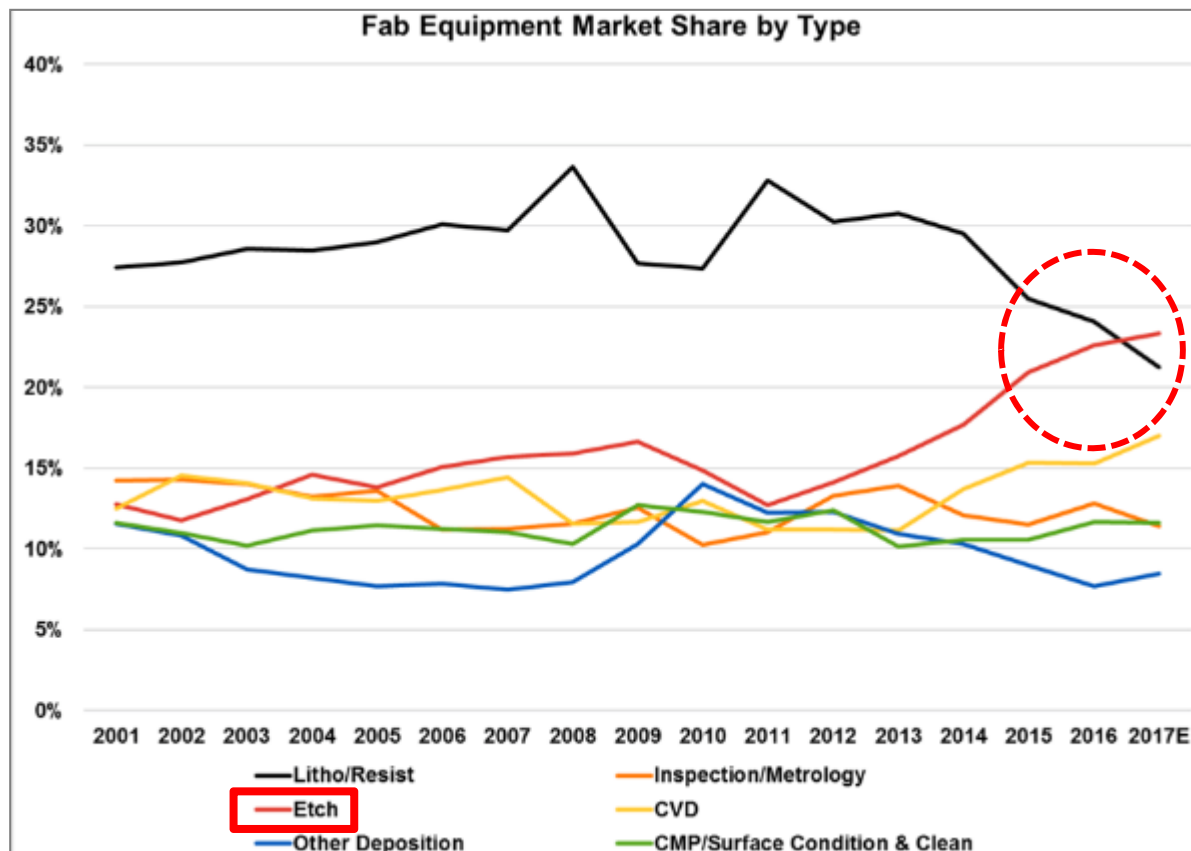
※出典：国際半導体製造装置材料協会（SEMI），2018年7月



※出典：日本半導体製造装置協会（SEAJ），2018年7月

エッチング装置と露光装置の割合

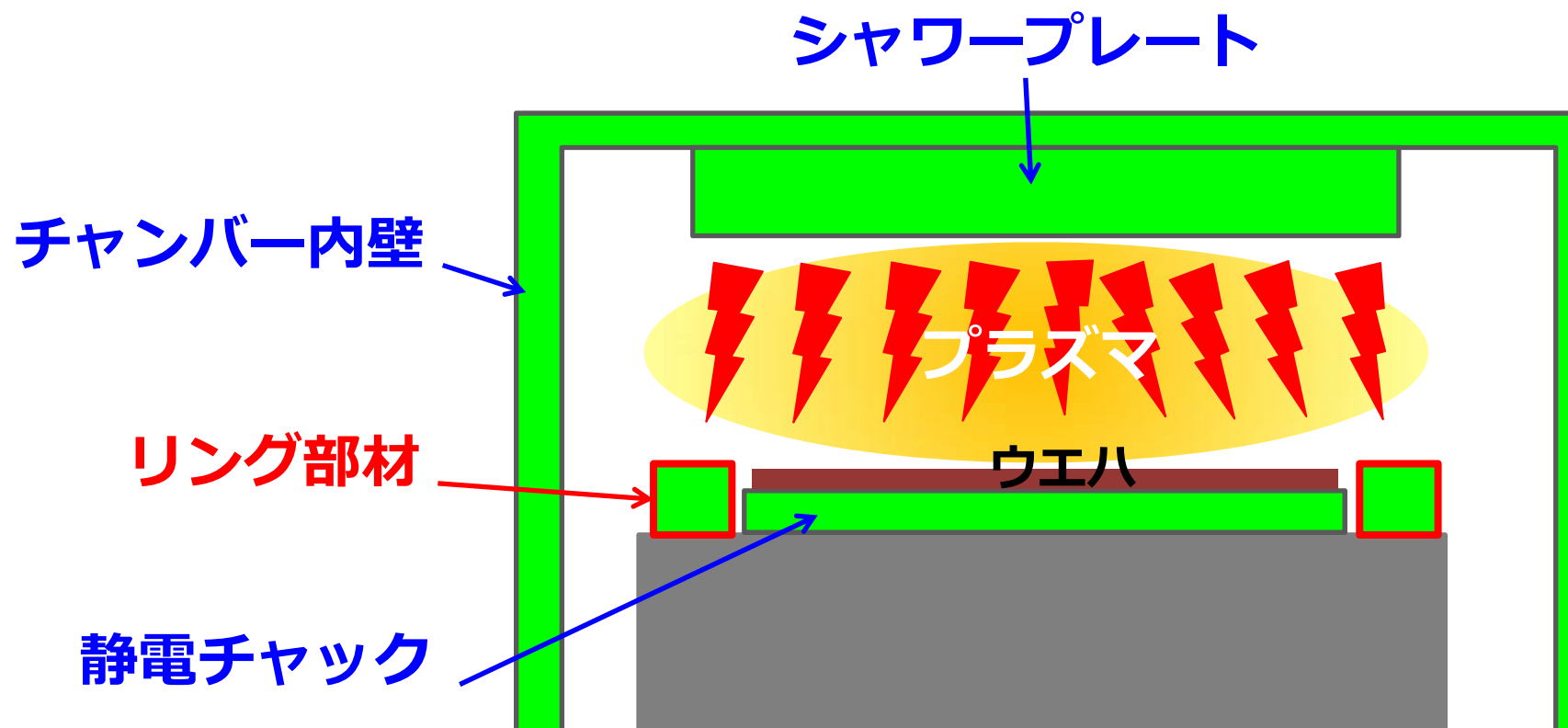
- ◆ 2017年、エッチング装置の売上規模が初めて露光装置を上回りました
- ◆ 半導体の微細化・多層化に伴い、今後もエッチング装置市場の拡大が見込まれます



伸長するエッチング装置市場に、当社の耐プラズマ部材を投入する。

※出典：SEMI / SEAJ WWSEMS

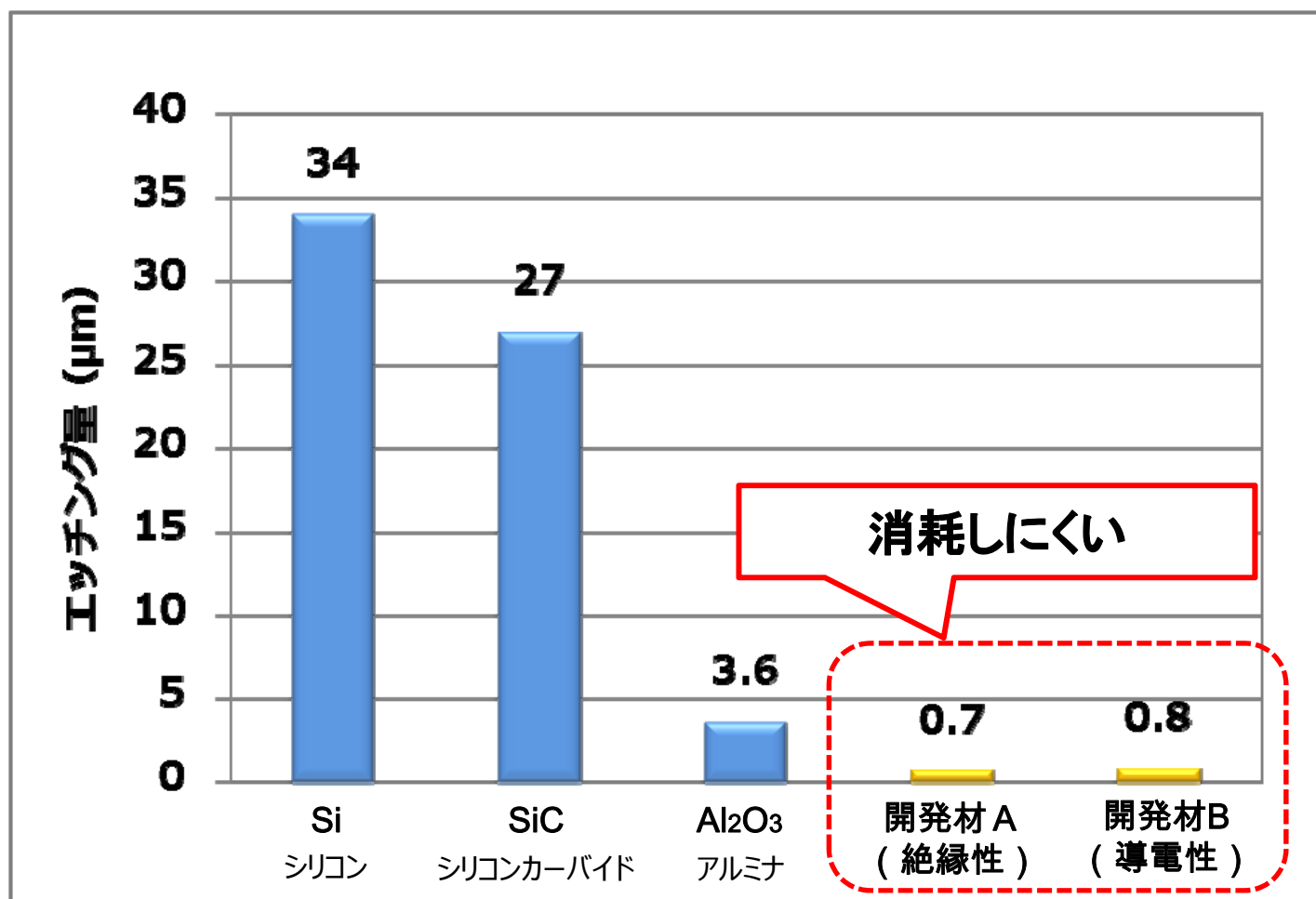
プラズマエッチング装置へのセラミックス応用例



半導体製造用プラズマエッチング装置の模式図

プラズマ耐性に優れた特殊セラミックス

各種セラミックスのプラズマ耐性



■ 自動車市場の製品紹介

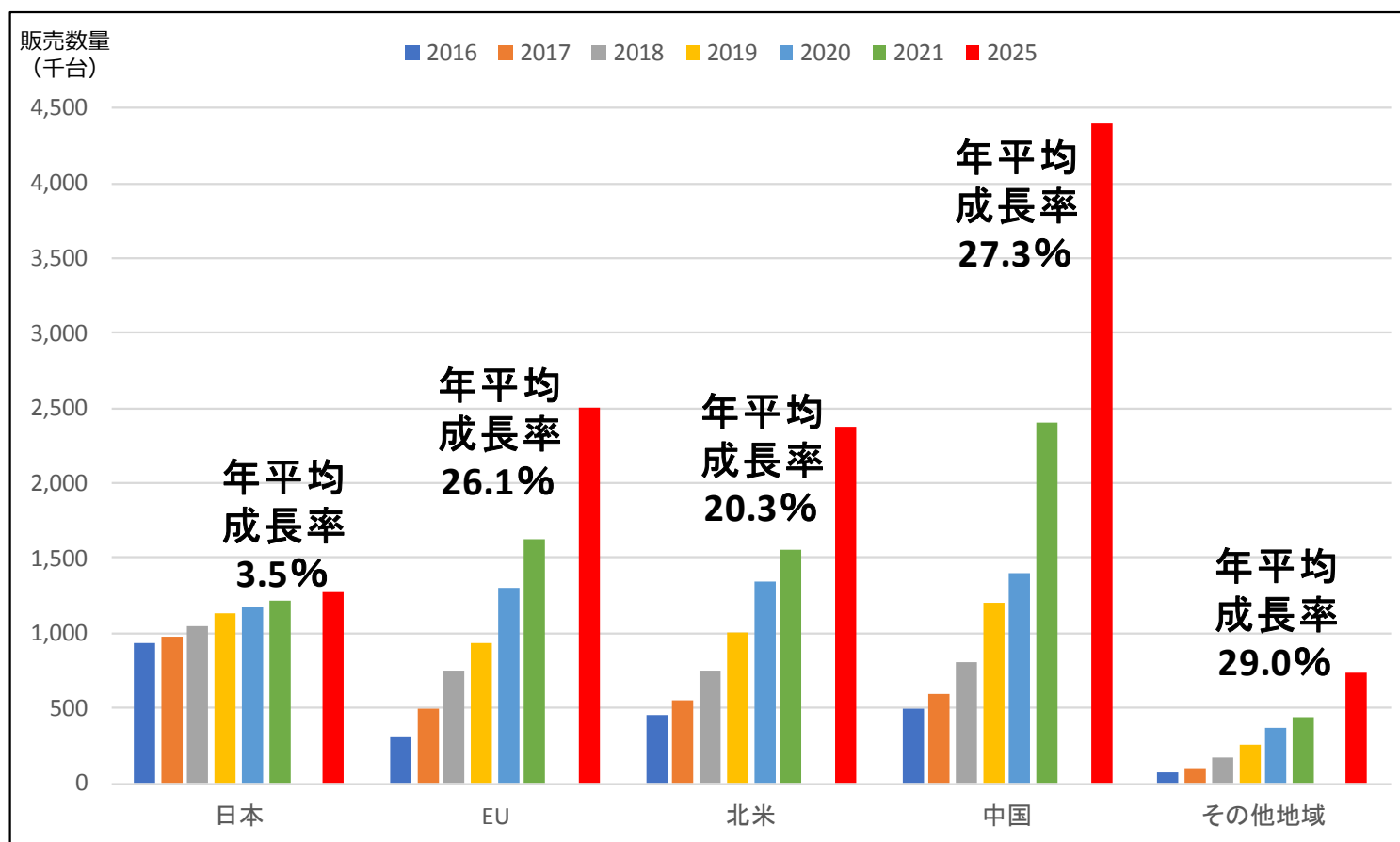
自動車

抵抗溶接用電極
EV用接点製品



電気自動車の市場成長予測

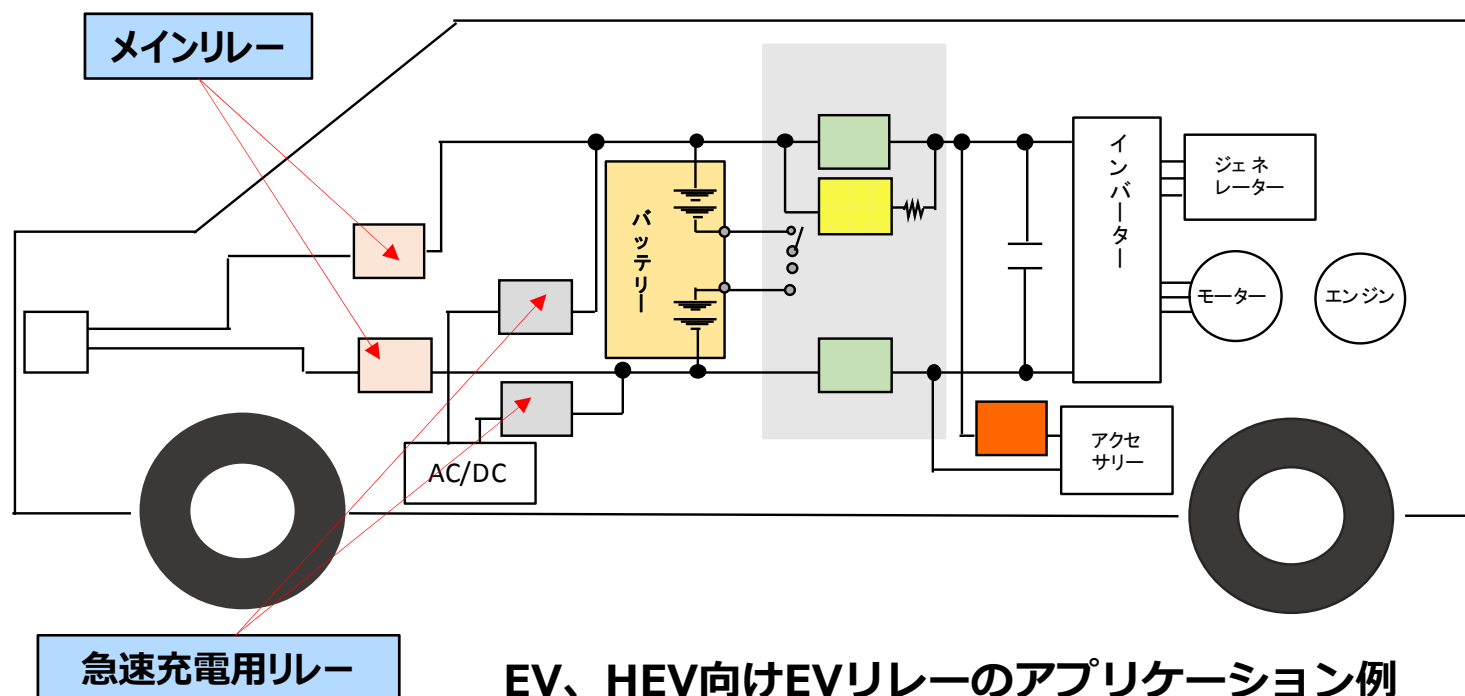
- ◆グローバルでの2016年－2025年の年平均成長率は19.5%と拡大するとみこまれます
- ◆地域別の年平均成長率は、中国、ヨーロッパの市場が高い



電気自動車の地域別市場成長率予測 2016-2025 (みずほ銀行産業調査部調べ)

EV用接点製品

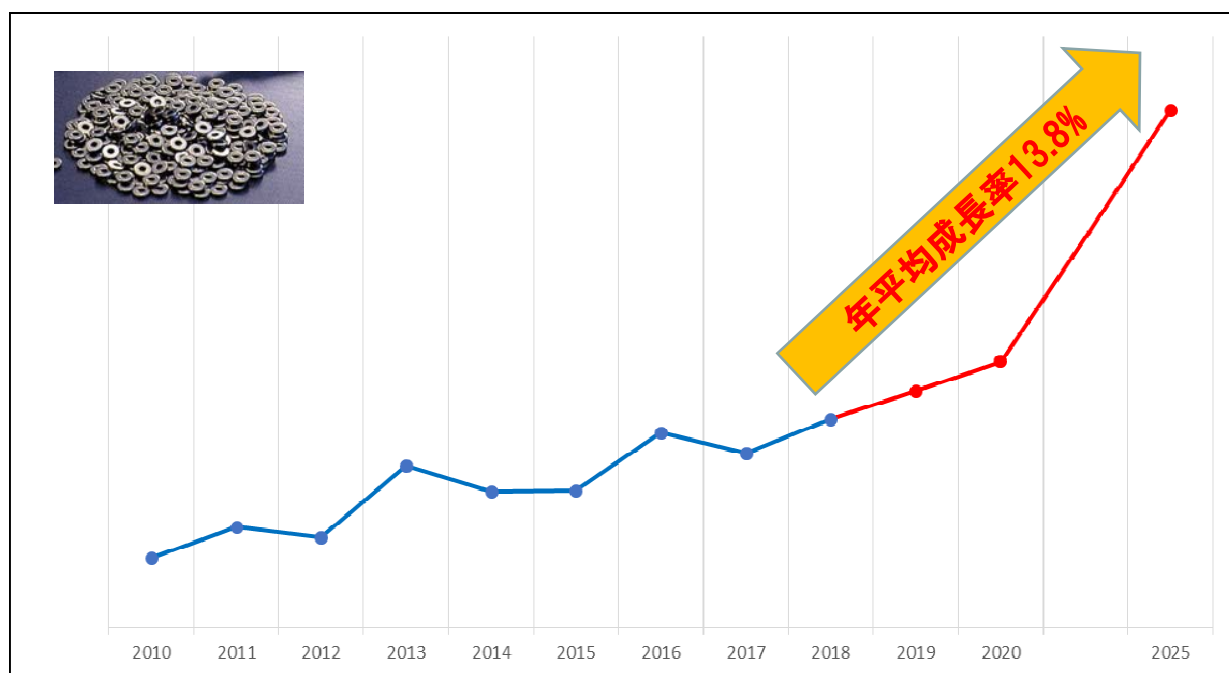
EV用接点製品は、主にEV自動車で使用され、事故などの緊急時にバッテリー、モーターの電流を瞬時に完全に遮断するメインリレー用接点や急速充電用のリレーに使用されています。



EV、HEV向けEVリレーのアプリケーション例

EV用接点製品の成長率

EV市場の拡大とともにリレー用接点も増加する見込み
当社のEVリレー用接点も、2018-2025で年平均成長率13.8%と拡大する見込み



EV接点の市場成長率予測 2010-2025 (当社調べ)

2019年に生産能力を**1.6倍**にする設備投資を計画。

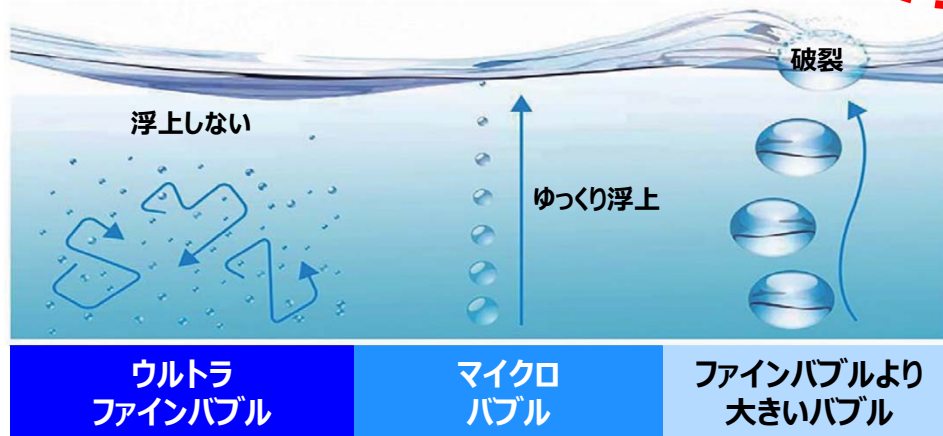
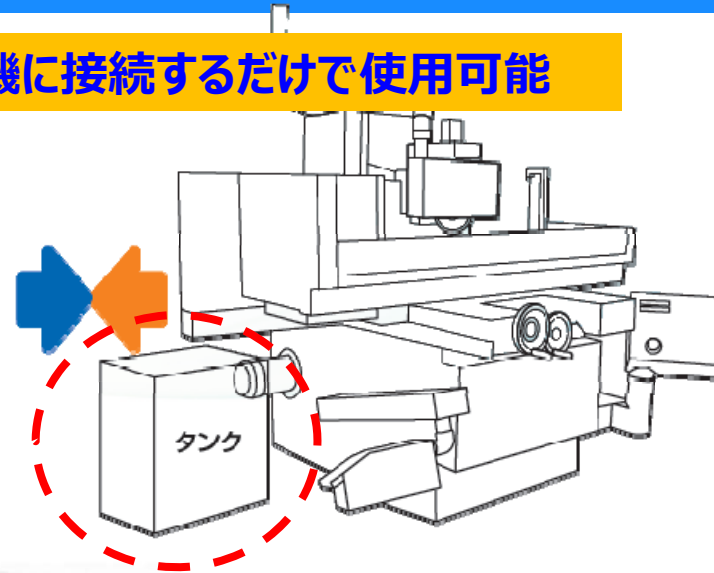
抵抗溶接用電極及びEV用接点製品



タングステン系の電極は、主に自動車電装部品の**接合工程**で用いられています。
当社の抵抗溶接用電極は長寿命化や生産効率の向上に寄与しています。

ウルトラファインバブル（UFB）クーラントシステム

※既存の加工機に接続するだけで使用可能



- 研削能率は1.5倍以上、切削能率は1.4倍以上に改善。
- 砥石の寿命延長と臭気防止の効果が得られています。

直径1 μ m未満
微細な熱運動の為に
浮上せず消滅しない

直径1 μ m～100 μ m未満
浮力の為にゆっくり浮上し
やがて消滅する

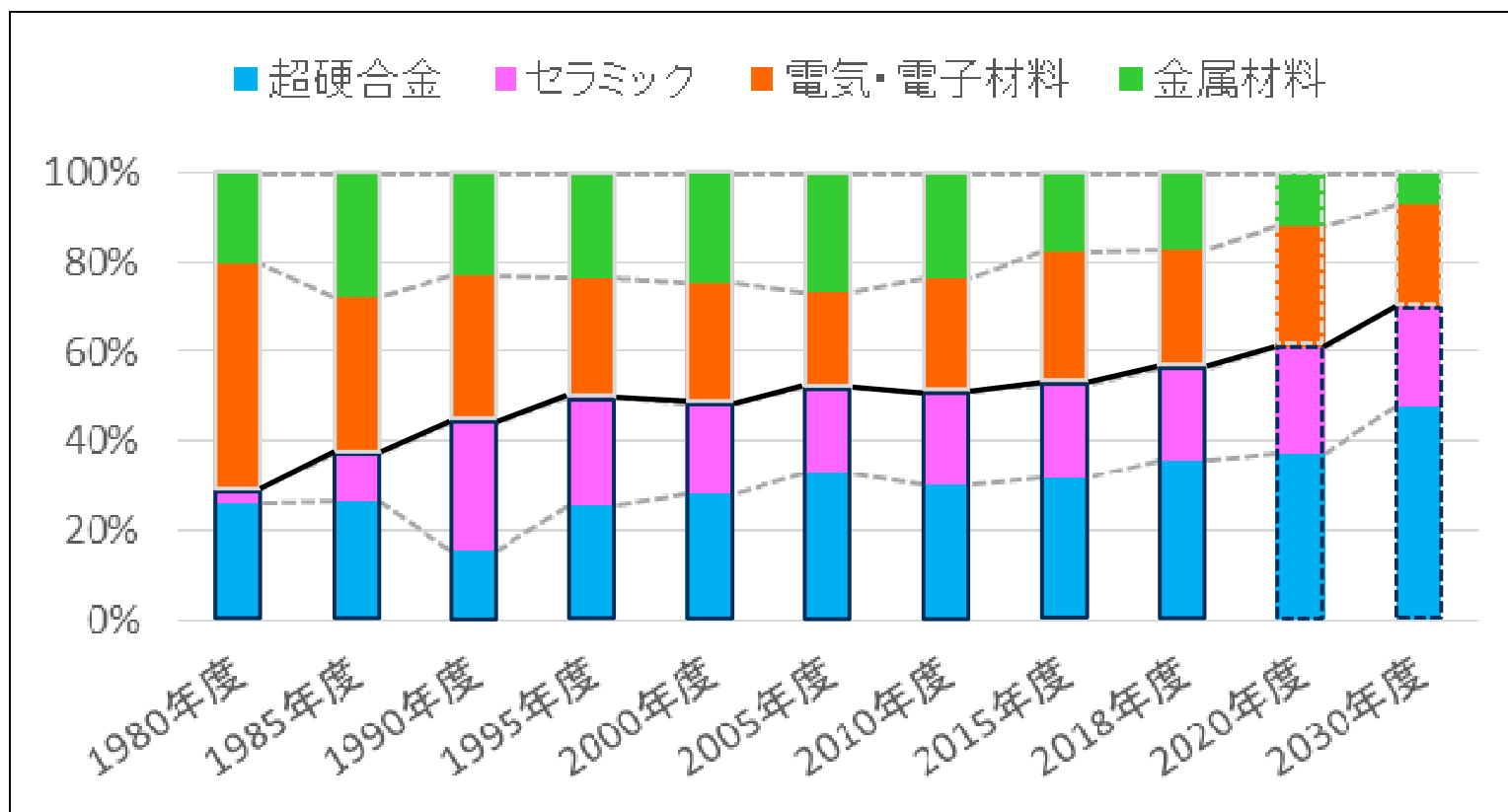
直径100 μ m以上
発生とともに
浮上してしまう

セグメント別売上高比率の推移

1980年代は電機部品事業※の売上高が約70%を占めていたが、2000年代になって機械部品事業※の売上高が増加し、2020年には約60%を占める予測となっています。

2020年以降は機械部品事業に注力し、業績を伸ばしていく予定です。

(※ 機械部品事業:超硬合金+セラミック 電機部品事業:電気・電子材料+金属材料)

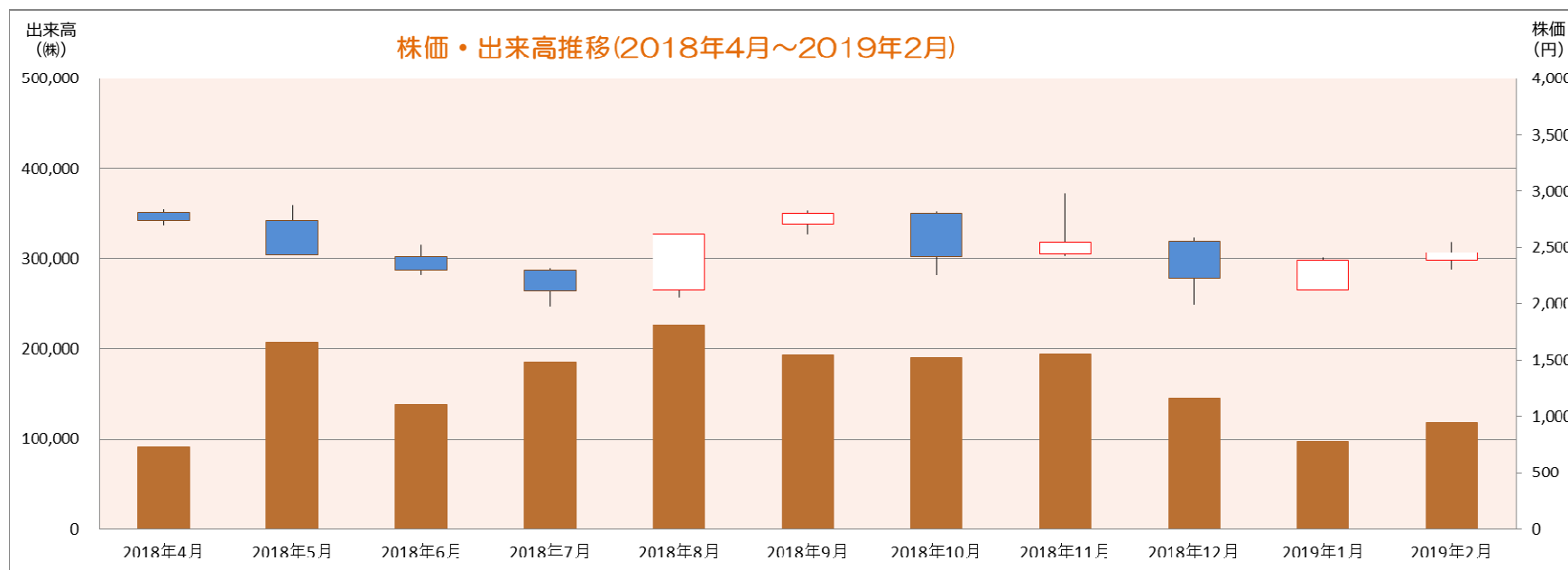


売上高比率の推移

1. 会社概要
2. 事業内容
3. 業績の概要（2019年3月期第3四半期）
4. 剰余金の配当、配当方針
5. 2020中期経営計画
- 6. 株式の状況**

株式の状況

株式指標	発行済株式総数（18年9月）	2,577千株
	浮動株比率	66.4%
	株価 （3月14日）： 売買単位100株	2,421円
	1株あたり純資産（19年3月期第3四半期）	4,100円62銭
	PBR ：株価純資産倍率	0.59倍
	1株当たり純利益（19年3月期予想）	341円85銭
	PER ：株価収益率（19年3月期予想）	7.08倍
	1株当たり配当金（19年3月期予想）	90.0円
	配当利回り （19年3月期予想）	3.72%



ご静聴ありがとうございました。

本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。

従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。

投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

(参考) 業績の概要 (連結)

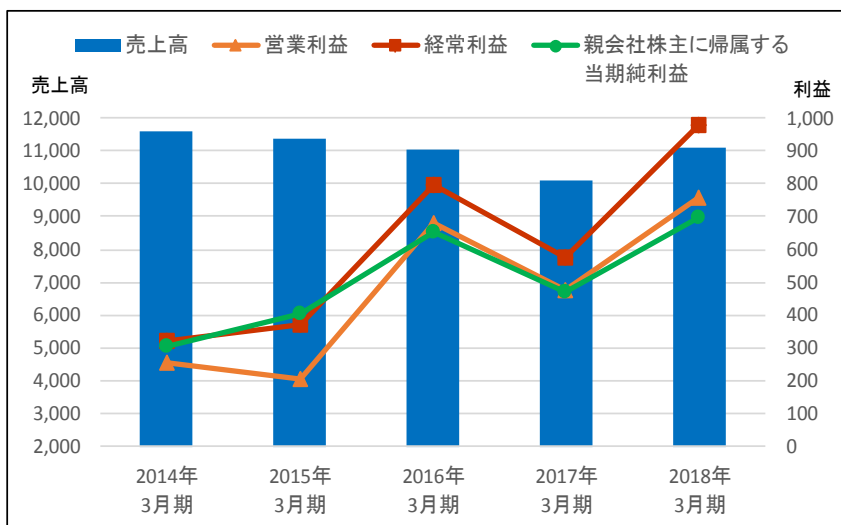
■ 経営成績 (連結)

海外の不採算事業を整理し、高採算事業へ注力

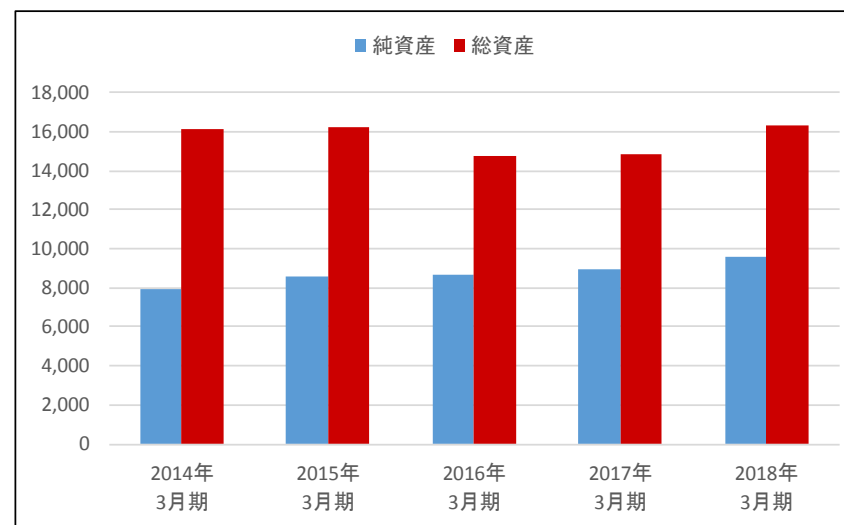
(単位: 百万円)

区 分	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
売上高	11,616	11,372	11,022	10,124	11,102
営業利益	256	204	678	473	755
経常利益	320	372	795	575	980
親会社株主に帰属する 当期純利益	303	401	651	469	696
純資産	7,950	8,563	8,652	8,978	9,578
総資産	16,155	16,177	14,777	14,836	16,306

■ 売上高・経常利益・当期純利益



■ 純資産・総資産

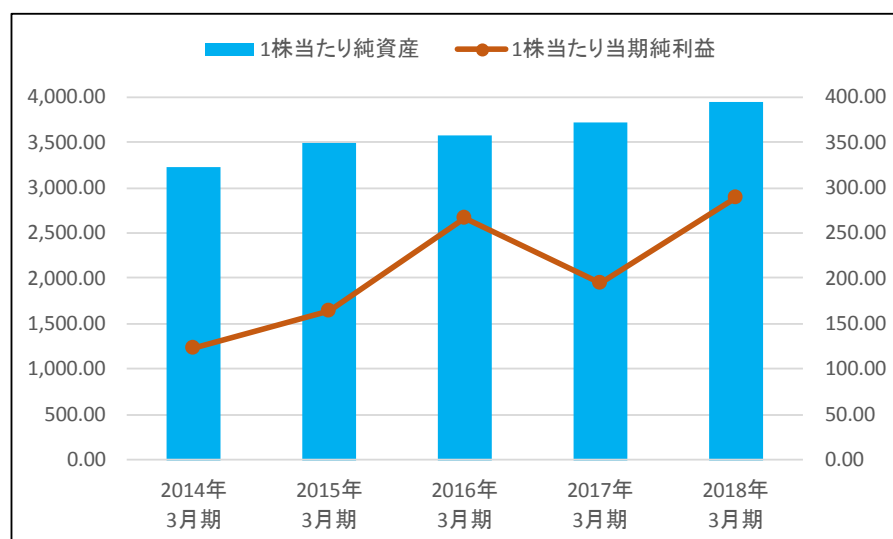


(参考) 業績の概要 (連結)

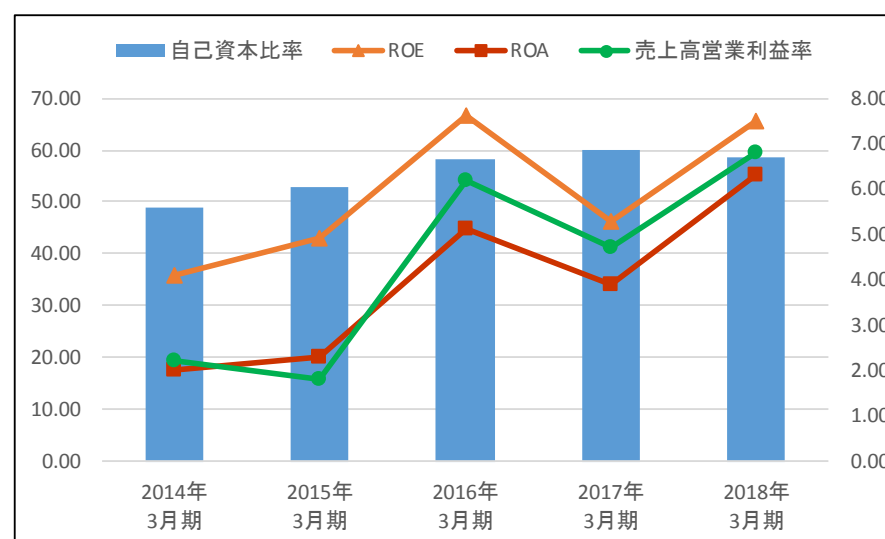
■ 経営指標

区 分	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期
1株当たり純資産 (円)	3,223.59	3,483.29	3,582.89	3,715.00	3,949.26
1株当たり当期純利益 (円)	123.87	164.23	266.45	195.02	288.51
自己資本比率 (%)	48.80	52.70	58.30	60.20	58.50
自己資本利益率 (ROE) (%)	4.10	4.90	7.60	5.30	7.50
総資産経常利益率 (ROA) (%)	2.00	2.30	5.10	3.90	6.30
売上高営業利益率 (%)	2.20	1.80	6.20	4.70	6.80

■ 1株当たり純資産・1株当たり当期純利益



■ 自己資本比率・ROE・ROA・売上高営業利益率



(参考) 業績等の推移 (過去10年間)

過去の業績等 (売上、営業利益、経常利益、株価) の推移

